

平成26年6月9日(2)

開議 10時00分

○議長 磯永優二君

皆さん、おはようございます。只今の出席議員は14名であります。それでは、これより本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問、1日目を行います。順次、質問を許可します。

はじめに、豊明会の質問を行います。最初に、黒江哲文議員。

○1番 黒江哲文君

皆さん、おはようございます。それでは、豊明会1番目、市民目線がモットーの黒江哲文が、一般質問を行いたいと思います。

本題に入る前に、今までの一般質問において、執行部の方が対応してくれた経過等、市民の方のお礼も兼ねて、3点お伝えしたいと思います。

まずは、今まで数々の一般質問の中で、市民サービス、ワンストップサービスと、多々議会の中でも質問があったかと思えます。総務課長においては、一遍には無理ですが、1つずつ行っていきたいということでありました。まずは、教育課を福祉課の横に移動したいという話しでありましたが、それに、更に、また庁外にあった高齢者窓口、包括支援センターを庁内へと移動し、福祉課を一本化にするという機構改革を行ったわけでありました。5月のゴールデンウィークの連休中、庁内の大移動ということで、携わった関係職員の皆様方、大変お疲れ様でした。執行部の敏速な対応、市民サービスへ向けてと、とても市民も本気度を感じるのではないかと思います。

市長は、この機構改革、今後は、どのような狙いで、また実際どのような成果が求められているのか、ということをお尋ねしたいと思います。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

機構改革について、今後どのようにするのか、その方針をというご質問でございます。今回、いまおっしゃって頂きましたように、大幅な機構改革をやりました。

これは、黒江議員さんはじめ、議会の質問、ご指摘、それを受けて対応させて頂きました。職員が暑い中、しっかり頑張って頂きまして、3階から1階への、また40年ぶりの民族の大移動という言葉まで出ました。この目的は、ひとえに市民サービスの向上、特にワンストップ、ワンステップ、1箇所で狭い範囲で、効率的に市民サービスを受けられるという体制を取らせて頂きました。まだまだ十分ではないところもございます。

満足いくところではございませんが、段階的に、また、いま改めて改革いたしました点を修正することも必要ではないか、という所も起きてくる可能性もあります。

そういう情報をしっかり捉えながら、更に、市民サービスが向上するように、改革を進めてまいりたいと思います。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

分かりました。お疲れ様でした。また今後、経過で、市民の声で、また池田総務課長も、いろいろ声があろうかと思いますが、改善のほう、市民サービスに向けて、よろしく願いしたいと思います。

続いて、目安箱であります。今まで取り組んで頂いたのが、市民の声を万遍なく各地より吸い上げて頂くために、議会よりの要望で、市内17箇所に設置をして頂きました。

また、市民の声を行政がきちっと対応しているのか、ということで、チェックするために議会に届けて頂く要望も、しっかりと対応して頂きました。そして、市民の声をどのように改善したのか、市報に掲載して頂きたいという要望に対しましても、今度の6月号で載せて頂きました。市民を代表する議会の声を、しっかりと対応して頂きまして、ありがとうございます。

しかし、この企画、残念なことに、市民の声が、ここ数ヵ月、入っていないという状況という部分もあります。今後また周知方法、また、前回は総務課長より、区長に再度いろいろお願いして頂くというようなこともありましたので、また周知方法、引き続きよろしく願いしたいと思います。お互いに、言えば良い、やれば良いというような、そういう対応ではなく、市民サービスに向けてお互いに取り組んでいきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

最後の3つ目ではありますが、生き活きエアロ塾であります。健康増進事業として、利用者に好評でありました。問題は、市の予算年度の関係、計画がモデルだったという理由で、事業がストップしたことに対して、議会からの要望は、健康増進事業は継続することに意味があるので、事業を再開して頂きたいということで、して頂いたわけではありますが、利用者は、とても体調が良いとあって、喜ばれておられました。関係執行部の方、ありがとうございます。そして、今後の計画、また引き続き成果の切れ目がないよう、対応をお願いしたいと思うところであります。

それでは、本題に入ります。今回の質問は、大きくは、人口増対策に携わる行政の取り組みという、大きい枠では1つであります。この項目の趣旨は、単純に言えば豊前市で暮らすのに、どんなところが豊前市が良いのか。どんなところが近隣に劣っているのか。市はどんな対策を練っているのか、ということであります。

質問の内容は、小さく4つに分けて、市民生活における助成、教育やスポーツ環境の整備、都市計画マスタープラン、商工会議所との連携という中で、人口に携わるであろうと

いうところを挙げさせて頂きました。

それでは、まず、市長に質問いたします。市長も1年が経ち、新しい予算、そして新しい人事、そして新たな機構改革と、市長の思う体制が着々と進んできているのではないかと思うところであります。

きょうの私の質問は、人口増対策ということで、若い世代を中心に考えている質問であります。まずは、その若い世代について、市長がどのように考えているのか、お聞きしたいと思います。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

お答えになるかどうか分かりませんが、若い世代、私たちにとりましては、若い世代こそ地域の、こういう言葉は誤解を招くかもしれませんが、地域を永続的に、持続的に保持増進していくと言いますか、力を付けていく、そういう意味では、再生産力だと思います。労働力という意味でもそうです。

それから、若い人が多いことが、やはり活力があるというふうに見られるし、映ります。また、再生産力と言いましたのは、やはり家庭をもって頂き、そして、その次を担う子ども達を生み育てて頂くと、そういう力だと認識しております。そういう人たち、若い世代が多い所が、次代への可能性が高い、ポテンシャルティの高い地域だと認識されると、そういうふう理解しております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

子どもを生むと、そういうことなのかなと思いますが、市長は、よく高齢者というふうな形で、よく言われておりますが、私は、やはり市長にお願いは、生まれてから老後に至るまで、このライフプランの充実や、バランスが必要ではないかというところであります。そのような観点で、きょうは質問をしたいと思っておりますので、どうかよろしく申し上げます。

そして、総合政策課に質問いたします。人口増対策といえば、担当課は総合政策課であります。また総合政策課と言えば、市政全般の各種基本計画の策定、そして、計画の進行管理及び総合的な調整役かと思っております。いま豊前市の現状、今後の方向性は、人口増対策課として、どのようにお考えですか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、栗焼憲児君

○総合政策課長 栗焼憲児君

おはようございます。お答えいたします。

人口増対策につきましては、現在、豊前市の未来応援プランということで、庁内の様々な課が計画しておりますものを、1つの枠にまとめまして、PRするように努めております。それにつきましては、定住促進のパンフレットでありますとか、ホームページ、そうしたものを活用しまして、市内外へPRをしているところであります。

その進行管理につきましては、豊前市少子化対策推進会議、及びその作業部会というものがあまして、こういうもので検討しながら、年度毎の評価を行い、また他自治体の事業等も参考にしながら、新たな取り組みについても検討頂いているところでございます。

このような全庁的に取り組む政策課題につきましては、総合政策課で、それぞれの課と調整をしながら、バランスがとれた、また実効性のあるものとなるように努めております。

今後の見通しとしましては、当然、人口推計の中では、人口の縮小が想定されておりますので、そうしたものを前提に、いかに豊前市が住みたくなるまちにもっていけるか、そういうところを念頭に、また今後とも様々な取り組みについて、検討していきたいと考えております。以上です。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

いま課長のほうから計画、そして推進しているということですが、そのようなことがより具体的に、また成果が具体的にどうなのかというところを、今から訪ねていきたいと思っているところであります。

それでは、1つ目の質問です。市民生活における助成。課長に人口増対策の取り組みは、豊前市でどのように行っていますか、というふうにお話をしたところ、この、住んでみよう豊前市に、ということで、定住促進パンフレットだ、というふうに頂きました。

まず、このパンフレットは、何部作って、何部どこに配布されたのか、お願いします。

○議長 磯永優二君

総合政策課長。

○総合政策課長 栗焼憲児君

これは、毎年作成をしておりますが、今お手元でございますものが、2回目の作成をしたものになります。これは5000部印刷をいたしまして、初年度と昨年度は、主に市内の事業所、市内の事業所には、市外から通勤されている方が沢山いらっしゃいますので、市内の事業所112社に、約2500部程度配布をして、従業員の方に手渡して頂けるようお願いをしております。

その他の部分につきましては、市の総合窓口でありますとか、市内の関係施設、それから市外のイベント等がありましたときには、そうした所に持って出まして配布をいたしております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

このパンフレットですね。この前、一部の声であります、会社で貰ったり、いろんな所で貰ったり、豊前に住んでいるのに何枚も貰う、というような声がありますので、税金の無駄遣いではないかというような指摘も受けました。

そして、この情報は市報に挟んだり、市報に掲載したりというのは行っていますか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

直接、市報に折込みはしていませんけども、一部ピックアップした内容を、市報で紹介する等のことはしております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

これですね、若い人が見たことがないという方も結構多いんですよ。話を聞いてみると、市報も見えないというような話があります。なぜかと思えば、民間のアパートに市報が入っていないということで、このようなことは本当ですか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

市報の配布につきましては、それぞれの行政区、区長さんをお願いして配布をしております。アパート等で行政区に入っていないところの方は、直接、総合政策課のほうに代表の方が取りにおいでたり、そういうことをしておりますけれども、一部入っていないようなアパートがあるやに聞いております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

ここの何か対策などは考えているかというところであります。いま課長が言われたのは、市や区のいろんな事情ではあるかと思いますが、私が課長にお伝えしたいのが、民間のアパートには、若い世帯の方が多いわけですよ。家を建てたり、定住を進めるには、そのサービスの情報を、そこの民間のアパートに送り込むということが、すごく効果があり重要ではないかと思えます。

例えば、アパートの住民にチラシをポスティングして、内容は、市のサービスや情報が

沢山あるので、当番制などで、代表が市の窓口に取りに来て下さいとか、という手順を書いたチラシをポスティングするなど、大家にお願いして、何かとりまとめてくれないかというような対策。まず、できる、できないは後にして、この市報などの情報を少しでも若い世帯に届けるという工夫が必要ではないかと思いますが、課長どのように思いますか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

市報の配布につきましては、総務課のほうで所管をしておりますので、総務課と今後その辺、ご指摘頂いた内容を検討しながら、なるべく沢山の方に届けられるように対処してまいりたいと思います。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

課長、私が言っているのは、総合政策課として、この営業をするのに、何かこういう所に営業したり、方法を考えたりすることが必要ではないかと、その考えをお聞きしたんですが、総務課とどうこうと言っても、どういう意味か分かりません。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

申し訳ありません。それで配布先につきましては、議員もご指摘頂きましたように、同じような所というようなご意見は、昨年、民間企業さんにお配りしたときに、2年続けてお配りをしましたので、もう少し配布の方法を工夫しては、というふうなご意見も頂いておりますので、本年度につきましては、企業さんのほうを少し控えさせて頂いて、他の配布場所について、例えばJRさんをお願いして駅でありますとか、その辺の工夫をしてまいりたいと、いま検討しているところでございますので、参考にさせて頂きたいと思えます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

是非、効率の良い方法を課で協議をして頂きたいと思えます。
それでは、このパンフレットの中身であります、豊前未来応援プランということで、若い世帯向けになっております。大きく4つに分けて、結婚3事業、出産3事業、育児4事業、子育て3事業という項目で載っております。これですね、この計13事業の中から、近隣と比較して、豊前市の事業が実際どうなんだということを、私が勝手に査定をいたし

ました。時間の関係上、ちょっと省かせて頂きますが、報告させていただきます。

まず、頑張っている事業ということで、2つ挙げさせていただきます。出逢い応援事業、パパママ応援事業、豊前市の良い助成ということで、新婚家庭家賃助成事業、すこやか赤ちゃん祝金、第3子保育料無料のこの3点。

豊前市の劣っている助成、子ども医療費助成、病後児保育というふうに、この7つの事業を挙げさせていただきます。後の事業は、さほど近隣と差がなかったかな、というふうに思いますので省かせて頂きました。

このような事業、PRも兼ねて、各課長に報告をして頂きたいと思いますが、まず出逢い応援事業ということで、頑張っている事業、これは市長も力を入れているわけでありませんが、今度6月15日も行われるわけでありまして。簡単な説明で良いので、課長、お願いします。

○議長 磯永優二君

生涯学習課長、佐野京一君、答弁。

○生涯学習課長 佐野京一君

今度の日曜日に出逢い応援事業ということで、男女合わせて10名ずつでホテル観賞を行い、そこでコミュニケーションをとり、出逢いの場を応援していきたいと思っております。以上です。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

これは、市と商工会議所とのコラボ事業ということでありまして、どうにか10名、10名揃ったというふうに聞いております。夕食会とホテル観賞で素敵な出逢いということで、市長は、今期が2回と強い要望があったようでありますし、また1回目は6月にという担当者から要望もありました。

担当者も会議所の青年部に何度も頭を下げて、6月にやってくれ、という短期間での計画でありました。現場での担当者、そして青年部の努力や、ご苦労も市長に報告しながら、お伝えしたいと思います。市長のこの婚活への思いということ、短めで良いんですが、よろしくお願いします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

少子化対策として、今まで行政が最も手をこまねいて、手を出さなかった部分が、この婚活事業であろうと思います。そして年に1回、この地域でやれば、大学入試じゃないですからということで、私は何度もチャンスがあるように、特に男性が何度もチャンスを得

て、自分を磨いて、魅力ある結婚に相応しい、そういう男になって頂きたいという思いもあって、複数回の希望を出しております。以上です。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

是非、成果が出ることを期待しております。続きまして、パパママ応援事業ということで、事業内容を簡単に説明して頂きたいと思います。

○議長 磯永優二君

市民健康課長、向野隆裕君

○市民健康課長 向野隆裕君

おはようございます。パパママ応援事業でございますが、これにつきましては、総合福祉センターにおきまして、年4回、健やかな妊娠、出産、それから、妊娠中の健康管理、食事、栄養等のお話、それから沐浴体験、試食会等を行っているところでございます。

また、それから、パパママとなる方同士の出逢いや、交流の場にもなるようにということで行っている事業であります。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

この実績のほうも年々増えているようでありますし、利用者からも良かったというような声も聞いております。ここに産まれてきた子どもを風呂に入れたり、初めての子ども、お母さんが分からないところの出張サービスなどがございますか。

○議長 磯永優二君

市民健康課長、答弁。

○市民健康課長 向野隆裕君

これにつきましては、赤ちゃん訪問というものをやっております、生後2ヵ月程度のお子さんをおもちの方に対して、全戸訪問して沐浴指導、栄養指導等を行っているところでございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

出張サービスは行っているということですね。こういうのも分かりやすく、ちょっと掲載したら良いのかなと思います。

それでは、豊前市の良い助成ということで、新婚家庭家賃助成金ということで、これもかなり成果が出ているのではないかと思いますので、短めで良いんで、簡単に事業の説明

をお願いします。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

これは夫婦とも40歳以下で、婚姻届を出して1年以下の方に、月額1万円を上限に民間の賃貸住宅の家賃について、助成をしているものでございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

近隣は、同じ事業などをやっているんですか。また近隣の事業実績とかはありますか、をお願いします。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

同様の事業は、県内では、例えば宗像でありますとか、柳川、それから、北九州市でも優遇制度という事業をしていると聞いております。事業実績については、申し訳ございません。細かなところを把握しておりません。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

この事業も、大変実績や成果も出ているのではないかと、利用者が喜ばれているかと思っております。

続いて、豊前市の良い助成の、すこやか赤ちゃん祝金、第3子保育料無料化、この部分、2つまとめて簡単に福祉課長、をお願いします。

○議長 磯永優二君

福祉課長、藤井郁君、答弁。

○福祉課長 藤井郁君

おはようございます。すこやか赤ちゃんの出産祝金につきましては、第2子10万円と第3子以降につきましては、25年10月31日までの出生の方につきましては、対象要件を満たした方については、20万円を支給する制度でございます。

それと保育料の第3子無料化につきましては、戸籍上の第3子以降の児童が入園した場合は、全額無料という制度でございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

この第3子の保育料無料ということで、大変利用者も喜ばれております。また、これだったら4人目も生みたいという話しもあります。という話しをお伝えしておきたいと思います。

そして、豊前市の劣っている事業ということで、やはりこの辺が気になるわけですが、乳幼児・子ども医療費助成ということであります。近隣との比較ということでありますが、この比較の中で、ちょっと簡単に比較の説明をお願いします。

○議長 磯永優二君

市民健康課長、答弁。

○市民健康課長 向野隆裕君

現在、豊前市では、乳幼児・子ども医療といたしまして、未就学児の子どもさんに対して、入院・通院を無料にしております。それから、入院につきましては、中学3年まで無料にしております。近隣の市町村で言いますと、この通院部分について、中学3年までとか、みやこ町におかれましては、高校3年までというふうに拡大している所もございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

この部分で、市民より、よく耳にしていたのが、豊前市は、なんで3割を、小学校・中学校の生徒を取るのですか、というような話しの中で、よそは取られないのにとというような話があったりしました。実際、月額600円か800円か取られているような状態で、近隣は取っているようではありますが、私は、職員に話を聞いたとおり、通院は3割負担するけれども、入院は無料ということで、その辺の負担を豊前市は少なくしているんですよ、ということで聞いておりましたが、この資料を見ますと、各自治体を見ても、入院しても月3500円、また5000円と、さほど、そこまで負担が掛ってない状態と思います。ここは、大きく市民に負担が掛るのではないかと感じるところではありますが、ここにつきましては、ちょっと後ほど、また質問したいと思いますので、その気になる点だけお伝えしたいと思います。

次に、豊前市の劣っている事業ということで、病後児保育、カンガルーのポッケということでありますが、これは近隣が1500円、2000円に対して、豊前市は1日の利用、2500円となっております。民間の中では、ちょっと、この2500円は、なかなか一般的には厳しいな、というような声もあるんですが、この取り組みは、今後どのように考えているかということと、それと後、利用者の数が分かれば、お願いします。

○議長 磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 藤井郁君

病後児保育につきまして、まず利用料なんですけど、議員さんが、今ご指摘がございましたように、大きく所得税、あるいは住民税の課税・非課税、それと生活保護の世帯というところで分けておまして、近隣の中津市、あるいは築上郡で見ますと、課税世帯に対する料金が、豊前市につきましては2500円、他については2000円、あるいは1500円というところで、余所からすると実際に高いということですので、今後、近隣等の負担金、利用料を参考に検討していきたいと。

それと利用者につきましては、平成24年度につきましては、延べ54名、25年度につきましては32名という利用状況になっております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

また、これから検討、協議をしながら近隣と調整していく、会議をしていくということですので、よろしくをお願いします。

そこで、やはり病後児はあるんですけど、病児保育の計画はございますか。やはり母親とか仕事をやっている家庭においては、やはり子どもが2人3人いると、病気が、たて続けになっていくと1週間、2週間休んだりとか、かなり母親に負担が掛っている現状というのがあるのではないかと思います、その辺は、どのように考えておられますか。

○議長 磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 藤井郁君

病児保育につきましては、近隣で申しますと、上毛、吉富さんのほうは実施をいたしておりますが、築上、中津さんのほうは病児については、実施いたしていません。

しかし、今回の子ども子育て会議に係りますアンケート調査を行ったところ、保護者の方からも、病児設置という声は多く頂いております。それと、これも議員さんのご指摘でございましたけれども、保護者の就労状況も共働きの家庭が多い、ということですので、今後、27年度に向けて、子ども子育て会議を現在、実施をしておりますので、その中で、協議を頂こうかと予定しております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

やはり病気のときに預かるというのは、いろいろな問題や、やる行程があるかと思いますが、是非その対応もしっかりご検討して頂きたいと思います。

それと、あと課長、先程、すこやか赤ちゃん祝金の分ですが、今こちらのほうには金券

というふうに書いておりますが、いま現金ですよね。そこを、ちょっと確認しておきたいと思います。

○議長 磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 藤井郁君

すこやか赤ちゃんの現金化につきましては、この住んでみよう豊前市、というパンフレットの段階では、金券、お買物券でしたけれども、現在は現金化ということでございます。

○議長 磯永優二君

課長、何で変わったときに、こういう公の文書を訂正しないのかね。

一番最後の平成27年3月の東九州道も開通予定です。これも1年延びるという予定に、正式に表明があって、なんで、こういう公の文書を訂正があったときに訂正をしないで、そのまま市民に配るんかね。担当は誰ね。総合政策課長。

○総合政策課長 栗焼憲児君

申し訳ありません。パンフレットを昨年に作成しておりまして、新しいパンフレットにつきましては、現在、制作中でございます。ただご指摘のように、情報が古くなっておりますので、今後、配布する分については、シールを貼るなり、訂正をさせて頂きたいと思っております。

○議長 磯永優二君

早くしないと、それが、お役所仕事っちゅうて市民から批判を受けるんやら。

簡単なもんやろ、こんなのは。訂正するのに。こんだけ、皆さん、この資料を出しとるのに。市役所がそういう間違った資料を出すかね。十分気を付けな。市長、こういうのは簡単に注意すればできることですよ。市長から一言。市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

ご指摘頂きました点は、大変貴重なことだと思います。配布済みの分については、もう致し方ない部分がございますが、いま手持ちの分については、早速、手作業でも訂正をさせて頂きたいと思っております。

○議長 磯永優二君

早急にお願いします。黒江議員。

○1番 黒江哲文君

いま議長から言われた内容であります。私は、総合政策課課長、そのようないま議長が言われたような内容ですが、総合政策、調整役として、しっかりしてもらいたいということを、引き続き質問の中でお伝えしたいと思っております。

この事業のなかで、まず私が1点気になる事業ということで、ちょっと1点挙げさせてもらっております。その放課後児童クラブであります。気になるというのは、サービス

また運営上のことであります。母親が仕事で残業したり、現場が市外で帰りに時間がかかる、また中には乳児園、保育園、学童と3つ回ったりして、共稼ぎの母親は、夕方大変忙しいということですが、延長などの声が挙がってないでしょうか。対応をお願いします。

○議長 磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 藤井郁君

時間の延長について、お答えします。夕方につきましては、今までは18時、夕方6時までということでしたが、以前から議会のほうからも、ご指摘、ご提案を頂いておりました。それと保護者からも強い要望がございましたので、今年度から夕方の時間帯につきましては、18時30分まで、ただし勤務の状況等、あるいは、通勤の状況等で必要な方に限って、時間延長を申請して頂いて、許可をして利用して頂いているという状況でございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

是非、共働きとか、今とても多いわけでありまして、その辺の声を聴いて頂きまして、いま対応しているということでありましたので、また引き続き声を聴きながら対応をお願いしたいと思います。

それと、もう1点、現在、小学校1年生から3年生までということではありますが、上級生の対応ということは、今まで議会でも声が挙がってきたようではありますが、この辺の対応は、どのようにお考えですか。

○議長 磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 藤井郁君

学年の全学年を対象としたということにつきましても、議会のほうからも、お声を頂きまして、昨年度、25年の夏休み以降から、合岩放課後児童クラブにつきましても、小規模特認校というところもございますので、学年のほうの延長をさせて頂いております。

他のクラブにつきましても、やはり保護者から、ご要望される声が多数挙がっておりますので、今年度中に対応できるようにということで、現在、検討を進めているところでございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

対応を考えて頂いているということで、是非、前向きに実行できるようにお願いしたい

と思います。

そして、昨年度は、主任児童員の負担が、ボランティアにしては大き過ぎるということで、その負担を取り除いたわけでありましたが、その後、職員と現場の指導員との連携といった組織に変更したわけでありましたが、その変更した中で、その後の問題、支障などはございませんか、お願いします。

○議長 磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 藤井郁君

昨年の7月から委託から直営という形に変わって、担当の子育て支援系のほうが中心になって、現場との調整等を図っているところでございます。福祉課と担当の係と現場とは、うまく定期的に会議等をもつなどして、現場の声を聴きながら、うまくやっているといるかと思えます。ただし、これは直営になる前から、若干出てきた問題ではあるんですけど、なかなか現場の職員の確保が難しいと。市報あるいは民間の求人誌等で募集をかけても、なかなか応募が来ないというふうな状態が何度かございました。

人員確保が、現在の一番の大きな課題かと認識いたしております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

いま課長も言われたとおり、確保というところで、この辺が組織を変えると、私もとても心配になるところであります。これについては、ちょっと、また副市長にお願いしたいと思いますが、いま学童は課長も言われていました、市の直営ということでありましたが、現場は、指導員が責任者で運営をしているということでありまして。そして指導員は、有資格者ということで、保育士、教員免許、幼稚園教員と聞いております。

その指導員が、現場に1人いないといけないということでありまして、もし辞められると、とても運営が困難になるのではないかと思うところが心配であります。

しかし、現状は、有資格者なのに指導員の給料、10万8000円と、責任とバランスが取れてないのではないかというふうにありますし、実際そのような声も聞いたことがあります。副市長にお願いは、幾つかの提案であります、指導員の給料を見直す、上げるべきなのか。また指導員の上に責任者の指導員を置き、現場の労力を軽減させることが良いのか。あとは保育連盟等と委託の契約を行うのか。民間と委託をするのかなどと、何らかの方向性を、しっかり市として協議をしていくべきではないか、と思っております、副市長、どのようにお考えですか。

○議長 磯永優二君

副市長、答弁。

○副市長 後小路一雄君

ご答弁申し上げます。先程から、放課後児童クラブの関係で、いろいろご質問を頂いておりますけれども、現在、時間延長、それから学年延長、そして、今ご指摘の職員の関係、いろいろ課題がございます。現場の声を十分聴きながら、放課後児童クラブの継続的、安定的な運営の確保に向けて、早速、協議に入りたいと思っております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

この児童クラブの質問の中では、副市長に、多々今まで質問とお願いをしてきて、このようになったわけではありますが、私も口を挟んで、途中でうまくいかないということもありますので、是非よろしく願います。

それと、続きまして、総合政策課長に質問したいと思います。

未来応援プランの事業の話をしたのですが、私が勝手に分析をしましたわけではありますが、この定住促進人口増対策等を行う上で、豊前市での暮らしでの総合的な生活費、試算が必要ではないかと思えます。その辺は、試算的なものがありますか、課長、お願いします。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

豊前市で暮らす場合の生活費ということではありますが、今のところ、その推計をしたことはございません。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

そうですね、その推計をやはりしないと、具体的な数字が出てこないのではないかなと思うわけではありますが、生活費と言えば、公共料金や税などを含めた、生活での出費の試算などが必要ではないかと思えます。様々な生活パターンでの出費の各モデルプランというようなことがあれば、どの部分で、どう違うのか、というのが分かりやすいかと思えますが、課長、そのような計画、対応をして頂けますか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

一般論としましては、都市部に比べて、大体3割程度安いだろうというふうな考え方はあるようではありますが、実際、計算してみないと分かりませんので、少し検討させて頂きたいと思えます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

これ人口増対策で、若い世帯と、その近隣との比較でありますので、試算すべき公共料金等を含めた試算すべき項目というのは、どの辺がありますか、お答え下さい。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

項目につきましては、今ちょっと頭の中に浮かんでできませんけれども、例えば、若い世代であれば、アパートに住んであるとか、家を建てた場合に、一般的にどのくらいの月々のローンがあるかとか。また公共施設につきましては、社会教育施設等を含めて、平均的に利用するとしたら、どれくらい掛かるのかとか、後はまあ・・・

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

その辺は、私生活の分になるかと思いますが、例えば固定資産税、国民健康保険税、そして上下水道の料金、保育料、この辺が市に携わる料金になってくるのかなと。そういう試算をするのに材料が必要かな、というふうに思うところであります。

そこで各自自治体との、この4つの公共料金の税ということ、近隣2市3町で比較をして、私の中で順位を付けさせて頂きました。質問の中は、この4項目を言ったんですが、それ以外にあるのかなというところを確認したかったところでありますが、固定資産税は1.5%ということで、近隣の5つの中では、1位ということで、一番高いということがあります。国民健康保険税は、所得割ですが、12.5%ということで3位、真ん中ですね。上下水道、水道料金、下水道がない地域がありますので、水道料金でしましたが、3位ということで、中間ということになります。

そして保育料の計算というところで、これは見ましても、豊前市と各4自治体等を、1つずつ比較してみました。何階層と所得で分かれております。3歳未満、4歳以上、豊前市は5階層、近隣では7階層、11、13階層とあるので、とても入り組んでいて、比較するにしても、どの部分が高かったり安かったりというふうに、ちょっと数字の比較がとても難しいのではないかと思います。この比較する箇所を、取りあえず100に分けて、どっちが高いか安いかというところで比較をさせて頂きました。

まず、豊前市が高い箇所が60箇所ありました。安い箇所が34箇所ということになります。料金が所得に対して保育料が同じということで、8箇所ありました。この高いほうの最高額は2万9650円も差がありました。そして1万円台違うところが、10箇所く

らいありました。そして安いところでは、最高8800円というようなところだったかなと思います。そういう箇所のところだけしか、ちょっと出せなかったんですが、豊前市は、ちょっと高いのかなと、これで感じております。

特に、高所得者、所得の高い方には、ちょっと高く、そして、また低所得者には、ちょっと高いのかなと、ここは階層に問題があるのかなというふうに感じたところでもあります。ということで、この全体的な豊前市の料金というところの総括をいたしました。

助成事業、公共料金、税を含めた豊前市と近隣との比較ということではありますが、まず豊前市の助成や事業は、決して劣っていないのではないかと思います。しかし公共料金が税などを入れると、2市3町では中間くらい、3位くらいということですね。

問題は、この子ども医療費や保育料ということでもあります。これが利用の仕方や条件で近隣との差が大きく出るのではないかとこのところでもあります。

例えば、高所得者の方で子どもが保育園に2人、そして、しょっちゅう病院に通うというような形になりますと、近隣と負担が大きく差が開いていくというような傾向があるのかな、と感じるところでもあります。やはり改善すべき点は、この2点ではないかと思えます。子ども医療費の助成の見直し、保育料の見直しをしたらということではありますが、豊前市のサービス、負担が近隣よりも、とても改善すれば充実するのではないかとこのように思うところでもあります。この2点について、再度質問したいと思います。

子ども医療費の助成ということで、小・中学生の3割負担、ここが大きく違うわけですが、これをなくした場合、市の負担は幾らになるかということは試算されていますか、お願いします。

○議長 磯永優二君

市民健康課長、答弁。

○市民健康課長 向野隆裕君

子ども医療費の通院部分の対象者の拡大につきましては、昨年度から検討してまいりました。約4000万円から5000万円程度の新たな財源が必要となるという試算が出ております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

4000万円から5000万円ということで、とても大きい額ですね。

私も財政のバランスを考えるのに、何でもサービスせというようなことは、議員としても軽率には言えないところでもありますので、しかし、やはり市民の負担を軽減させるということは、そういう人口増に対しては重要かと思えますので、どうか早めに予算を整理して、取り組んで頂きたいというお願いのところにしておきます。

後は、この医療費については、どちらにせよ、軽減の対策事業に取り組むべきではないか、というふうに考えるところであります。今年も暑くなり、夏場も長くなると言われております。熱中症などで病院に通う回数も増え、増加するのではないかと思います。

そのような対策については、豊前市では、どのようにお考えですか、お願いします。

○議長 磯永優二君

市民健康課長、答弁。

○市民健康課長 向野隆裕君

これから、本格的な夏の季節を迎えてきまして、梅雨時期になりますと多発する食中毒、それから7、8月になりますと熱中症ということで、そういったものに対しまして、予防を心がける必要がございます。シーズンに入る前に、市報等を通じて市民に対し、注意喚起を行っているところでございます。特に熱中症に関しましては、毎年、患者数が増えているような状況でございますので、今年度から、環境省が発表する熱中症予防、情報、これをホームページで予報が見られるようにするとともに、暑さ指数、こういったものが危険と予測される場合には、防災無線による注意喚起等もあわせて行っていきたいと考えております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

ちょっと今の中で、もう1回確認したいんですが、熱中症対策、防災無線と絡みをつけていくということですかね。どういうことですか。

○議長 磯永優二君

市民健康課長、答弁。

○市民健康課長 向野隆裕君

はい、危険と予測される場合には、防災無線で放送等、呼びかけて、注意喚起をしてまいりたいと考えております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

そのような対策も、折角、防災無線があるんですから、重要かなと思いますので、しっかりお願いしたいと思います。

それでは、もう1点の保育料、豊前市は5階層ということで、近隣は、7、11、13階層とあるということで、豊前市も、この階層を増やして料金を見直すと、かなり利用し易いとか、皆さん利用しているんですが、かなりサービスが変わるのではないかと思います。この階層については、福祉課では、何か協議されていますか、お願いします。

○議長 磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 藤井郁君

近隣も、かなり細かく分けてある所もあるようでございます。細分化することによって、議員さんご指摘のとおり、負担の軽減がされるケースも出てこようかと思えます。

それと一番高いところで、約3万円近い差があったということでありましたので、その辺はきっちと確認が必要かと思えます。

ただ、通常の保育サービスに限らず、やはり子育てサービス、保育サービスを含めまして子育て支援、総合的に、やはり組み立てていく必要があるんだろうというふうに考えております。先程お褒め頂きました、すこやか赤ちゃん出産祝金と、第3子の無料化につきましても、かなりの予算を投じているわけですので、総合政策課のほうで、所管をしております未来子ども応援プランの中でも、協議をさせて頂くとともに、子ども・子育て会議の中でも、子育て支援全般というところで、ご協議をさせて頂きたいと考えております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

ちょっと今よく分からなかったんですが、この辺が大きく違うということで、しっかりと層のチェックをして頂きたいと思えますので、どうかよろしくお願いします。

そこで、総合政策課長、このような比較をしてもらったわけではありますが、計算上、合っているかどうかというのは、ちょっと分かりませんが、こういう形で比較をしないと、近隣とどこが違って、どこを調整するべきなのか、そうすれば全体的なバランスがどうやって取れるのか。やはり試算をしなくては、計画が分からないのではないかと、前向きにということじゃなくて、もうやるべきだと思うんですが、課長、どうですか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

先程ご説明しましたように、少子化対策の推進会議というものがあまして、その中で、いろいろ検討しておりますので、ご指摘頂きました件につきましては、内容について十分検討させて頂きたいと思えます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

これだけ言っているのに、まだ検討と。やる気を見せて頂きたいとお願ひしたいところであります。この試算について、こういうのがないと、豊前市がどこが良いで、どこが悪

い。もうそうやって職員内で周知していくわけでしょ。そしたら皆各職員は、豊前市はどこが良いのかと、どうなのかと、この調整をしないと、各担当課は職員も説明ができないですよ。私たちも、どう説明して良いか分からないんですよ。どう思いますか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

ご指摘の点、十分理解しておりますので、前向きに進めていきたいと思えます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

ということで、この2点、最後に、市長ですけども、この2点を私の中で気になったところであります。市長のこの辺の各課で、私は知恵を振り絞って、どうにか説明できるような内容を作って頂きたいと思うんですが、この2点についてと、その方向性について、市長、お願いします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

地域の活力源である若い世代に定住して頂くという意味では、本当に大事な視点だと思います。特に子育て支援、やはり我々は人口増というものを目指しております。

少なくとも攻めることによって、これ以上少なくならないように保持、維持ができる、そういう体制をとっていきべきだと認識しております。そういう意味で、子育て支援のなかで、医療だとか保育、これは大変重要なところでございます。ただ、これは、一旦始めますと持続的、継続的に安定した予算の措置というのが必要になります。

25年度決算が間もなくあがると思えます。そういう決算の状態を見ながら、どういうところから安定的な財源を見つければ良いのか、そういうことも踏まえまして、また利用しやすい、受けやすいサービスとか、そういう体制づくりについて、前向きに検討していきたいと思っております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

今の項目の数値をしっかりと、どうか課で出してもらって、恐らく私の推測であります、市長は、やはり市民サービスに向けてやりたい、と思っているのではないかなというふうに思うところであります。

それでは、2番目の質問に入りたいと思えます。教育やスポーツ環境の整備についてで

ありますが、いま小学校の子どもをもつ保護者の間では、中学校に上がる際に、昔で言えば高校や大学を選ぶような会話が目立ちます。どこの中学校のほうが良いねとか。どこの中学校が悪いねとか。このような環境は、私はどうなのかと、とても疑問に思うところがあります。

教育長に質問したいのでありますが、やはり教育現場としては、不安に思わせる環境、例え難しくても、ここについては、本格的に改善して整備する必要があるのではないかと私は考えますが、教育長、どのようにお考えですか。

○議長 磯永優二君

教育長、答弁。

○教育長 戸田章君

議員ご質問の生徒指導のことについてに絞って申しますと、確かに各学校現場においては、中学校は反抗期、思春期の真っただ中です。いろいろな事情で、自分の存在感や、あるいは責任感、あるいは自己決定、生徒指導の機能を生かした授業づくりという大方針があるんですけども、思春期のその子ども達が悩み、苦しんでいるところに学校現場で一番大事なことは、学校の授業づくり、子ども達に自己存在感、決定権、そういうことを味あわせながら、子ども達と教師が結ばれるような、信頼関係ができるような、保護者との信頼関係ができるような、そういう環境づくりが、一番大切と考えております。

そういう中での日常の各学校の個々の問題行動については、1つひとつ丁寧に取り組んでいるところですけども、なかなか教師に指導に従わない子どもというのは、どこの学校にもいるようで、そういう面では苦慮している面はあります。以上です。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

いま教育長から生徒の指導というふうなところでありましたが、私たちは、やはり子どもの時から、いろんな悪さをすると厳しく怒られたり、反発したこともあります。先生から愛情を持って育てられたという部分については、もう私たち、大人になっても覚えております。教育長からも沢山の、そのような厳しい指導も受けた、そのときは頭に来ることもあったこともありますが、しかし、しっかりと考えて頂いたということは、子どもでも分かっております。

そのために、いま教育長が、先生が子どもにと言いましたが、どうか先生が愛情を持てるような環境をつくってもらえるように、再度、教育長が各先生に愛情を持って先生に接して頂きたいというお願いをしたいところでもあります。よろしく申し上げます。

答弁はいいです。続いてありますので。

ということで、この教育の環境整備という中で、保護者の中で最も多く挙がる声は、豊

前市内におけるスポーツ環境の話であります。私は、このスポーツ環境整備を早急に立ち上げるべきではないか、と思うところの内容の説明をさせて頂きたいと思います。

まずは、豊前市のサッカーに携わる現場の声を1つの例として、お話ししたいと思います。いま豊前市の小学生のサッカーチームは三毛門、黒土、山田、角田、豊前、豊前は宇島と八屋が入っているようでありますが、あと周防灘連合チームというものがあります。

とても小学校では、盛んな状態であります。そして中学校に上がる際に、豊前市には、千束中学校しかサッカー部がありません。そして、その千束中学校の校区以外の小学生、三毛門は吉富に行くわけでありましたが、八屋、宇島、大村、角田、合岩でありましたが、その地域のサッカーをする子ども達は、中学校に行く際に、どのような選択をしているのでしょうかということでもあります。

内容は、中学に行ってもサッカー部がないので、千束中学校、もしくは吉富中学校かの選択を、中学校に行く場合は、するそうであります。クラブチームだと中津、大分、小倉といった選択が多いようであります。宇島、八屋のサッカーをしている子どもは、八屋中学校に行きますと、中学校に部活がないので、やめる生徒も多いそうです。

部活動をしないう生徒も多いそうです。小学校の途中でも、中学校に行っても、サッカーがないのでやめようかな、と悩む生徒もいるそうです。そして中学の校区を変えて選択をする場合の家族は、子どもも、友だちとも離れていくし、子どもも保護者も大変不安になるというものもあるけど、その選択をするそうでありましたが、親子では、究極な選択を家庭では迫られているようであります。

クラブチームの選択をしますと、中津、大分のチームに入ると、グラウンドが耶馬溪だったり、宇佐だったり、日出ということで、なかなか子どもの足では行けないということでもあります。保護者の労力が掛って大変だということもあるそうです。

小倉のほうを選びますと、電車代が学割が利かないので、1日1680円ですね。大人料金を取られるということですね。週に3回の練習、試合などがあれば5回行ったりする場合もあるということで、電車賃がとても大変だという、これはもう計算しても、かなりの出費ですね。

そこで質問であります、教育長、今この豊前市のサッカー少年、中学に上がる際、このように路頭に迷うような状況というのが、現状あるのではないかと思います。

このような環境を、教育長、どのように思いますか。

○議長 磯永優二君

教育長、答弁。

○教育長 戸田章君

只今の議員のサッカーの一部分についてのご質問でしたけれども、部活動というのは、学校教育の中では、学校教育課程外教育内活動ということで、校長を中心に顧問等を置き

ながら、それぞれの部活を運営をしております。その中で、少子化が進む中で廃部になったり、あるいは親御さんのこういう部をつくってもらいたいというような要望等、多々ございます。議員の質問のサッカーのこういう状態ということも、よく承知をしております。学校のほうとしても、顧問がいない、数名の生徒しか入ってこない等々の調査もあるやに聞きましたので、その辺を含めて、今後、中体連等の連携の中では、少ない人数でも近隣と一緒に、合同チームが作れるというような規約もございますので、そういうことも推奨しながら考えていかなければならないというふうに考えます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

学校の事情、そして、またこのスポーツ環境は、教育長も中身は理解しているのではないかなと思いますが、いまサッカーの例を挙げましたが、現状、野球の環境、こちらのほうもよくご存じかと思います。少し前は、八屋と上毛の合同チームということでありましたが、今年は、豊前市のチームも、かつかつチームができていう状態であろうかと思えます。しかし3年生が卒業しますと、八屋は5名しか残らない。角田が5名しか残らない。そのうち1年生はゼロということであります。合岩は7名であります。

このままいくと、今年のシーズンは、ここと合同、今年のシーズンは、ここと合同、その内、どこかが廃部になるとかいうような、そのようになると、またサッカーと同じような現状になるのではないかと、心配だからこそ、今のうちに手を打つべきではないかと思うところであります。

やはり学校の統廃合ということも、いろいろ話がありますが、いろんな問題がありましようから、きょうはそこは言いませんが、スポーツの統廃合、野球はどここの地域でどうやってする。豊前市としては、豊前市の学生はここで集まって、みんな来れますよと。サッカーはどこですという統廃合をするべきではないかと思うところであります。

是非、教育長、その辺はどうですか。

○議長 磯永優二君

教育長、答弁。

○教育長 戸田章君

只今の提案、例えば豊前市内で一部、人数の少ない部を、豊前市として1つにしたチームをつくったらどうかというようなご提案だったと思います。中体連の組織がございますので、そういうところに、そういう例があるか。あるいは可能であるか。あるいは教育内活動ということですので、教師が責任を持って引率をしたり、指導したりできるような態勢があるのか。あるいは外部顧問等が必要であると。そういう人がおられるかどうか等々、いろいろな課題があろうかと思えます。そういうことも精査しながら、これからの部活動

のあり方というのは考えていかなければならない。いま議員がおっしゃったことは、もう私が現役の時代、20年前くらいから、社会体育に全て移行すべきだというような流れでもきております。しかし難しい課題もあります。これからも検証していきたいと考えます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

いま教育長、いろんな現場では、部活、いろんな問題で頭を抱えるところではないか。また社会体育という話もありましたが、ここについては、やはり行政をあげて取り組む必要があるのではないかと思います。やはり中学校の部活全体を見てみますと、先生の状態、話を聞きますと、先生は部活を1個受けないと悪いというような授業の一環としてあるというふうに聞いていますし、部活を受け持っても手当は殆どないという状況の中で、先生もやっているかと思えます。しかしその中で、先生が努力をしても、子どもや保護者から見ますと、あの先生は何も知らないからつまらんなど、そのような声在实际あったりするのではないかと。もう学校だけの部活の活動では、限界があるのではないかとこのように思うところであります。

やはりまちを挙げて、今クラブチームも盛んであります。その辺を視野に入れた学校と連携して、その社会体育の充実を図って頂きたいということ、市長にお願いということ、でさせて頂きたいと思えます。

続きまして、教育の環境整備ということで、いま豊前市の小学校では、三毛門が290名と、一番生徒数が多いわけでありますね。私は、この豊前市の三毛門地区の子どもの基本は、やはり豊前市の中学校に行かせるべきではないかと思うところであります。

理由については、やはり部活の問題もありますし、豊前市内の人が三毛門に家を建てる際に、校区が吉富になるから、そっちに引っ越したくないという声も多々あります。

成人式などでは、吉富の仲間と一緒に受けるわけじゃなく、豊前市の中で成人式を受けるわけでありますが、交流がある人は良いんですが、交流がない人は、三毛門は何かよそ者みたいで行ったら肩身が狭いというような話もあります。

それと三毛門から、豊前から吉富のPTAに入ったりすると、今度、郡P連になって隣の八屋と千束の交流ではなく、郡ということで、築上郡の括りで椎田、築上町との交流になるとか、こういったものも豊前市なのに、どうかならないのかというような声も挙がったりします。そのような様々な声も耳にするわけでありますが、やはり生涯、三毛門の学生、豊前市に永住する市民であります。やはり私はこの豊前市民と共に学ばして、中学校そして、また青春時代、大人になるまでを、豊前市で生活させる環境整備というのが、とても重要ではないかと考えるところであります。そこについて、どうなのかと、教育現場からお答え下さい。よろしく申し上げます。

○議長 磯永優二君

教育課長、答弁。

○学校教育課長 武道和宏君

お答えいたします。三毛門小学校区の児童については、基本的に豊前市と吉富町が、一部事務組合として設立をしております吉富中学校に行くことになっております。

しかし、家庭の事情など、一定の条件が整えば、豊前市、吉富町双方の教育委員会の了承に基づいて、区域外就学を認めているというのが現状であります。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

そうですね。やはり豊前市内の小学生は、ある程度ゆるく、いろいろどこの学校とか行けますよね。三毛門の生徒は、やはり吉富を選択というのが基本になっているかと思いますが、市長にもお話したいんですが、その基本的な部分を、やはり豊前に持って来て、いろんな事情で吉富に行きたいとかいう状況があらうかと思えます。

そういったところを当事者、該当者、保護者等の声が一番重要かと思いますが、そのような形で、いろいろ現場の声を調査しながら、基本は豊前で吉富に行きたい人は、その辺をゆるくして行けるようにするとか、これは私の一つ、いま思っているところではありますが、ここにはいろんな問題があらうかと思えます。ここに是非するべきではないかというところを、きょうは思いを伝えたいところではありますが、市長、いかがでしょうか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

やはり人口増を基本にしたご質問だと思いますので、そういう面からお答えしたいと思います。三毛門地区に、三毛門小学校に通う子ども達が、いま現状では、基本的には吉富中学に行くものだと、子どもも保護者も思っているし、地域も思っているというのが現状でございます。実情でございます。しかしながら、将来、大人になったときに、地域社会の一員として活動するときに、やはり豊前市民としていくんだったら、中学時代、八屋中学校など、こちら側の市内の中学校に通ったほうが、将来のためになるんじゃないかという、そういう面からのご指摘だと思います。

ただ選択の自由というのが、ある程度、担保されております。勿論、両教育委員会の了解のもとに希望を受ける形で、子ども達の希望が叶えられるという部分がございます。

しかしながら、やはり、いま個人的な見解だと言われました、豊前市民としていく子ども達のほうが多いんだったら、豊前市にある学校に通うべきだという、その辺につきましては、教育委員会、もしくは吉富中学校は、一部事務組合で運営しております。これも我々

自治体と同じ核を持った組織でございますので、そういう場を借りまして議論をしていければと思っております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

ということで、教育委員会で、この件、是非、本格的に協議をして頂きたいというふうな、いろんな状況があらうかと思っておりますが、よろしくお願ひしたいと思っております。

あと最後ということですが、今回の質問の総括ということですが、ちょっと、その前に前回の一般質問において、こういう質問について、質問した経過報告、進捗状況の報告ということで挙げさせてもらっております。ここについて、また2点挙げられているわけですが、5月20日、総合政策課から挙げられているわけです。

この件について、私に、この資料で話をしましたかね、お尋ねします。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

直接に、ご説明はしてないかと思っております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

直接に説明していないということですね。私は前回の一般質問で言ったのを覚えていませうかね。私が総合政策課というのは、庁内の取りまとめをしたりコミュニティーを進める場で、あなたが、しっかりそういうことをやって庁内につなげてもらわないと、困るんですけどということで、私は余りにも、これが来て、もう私たち議会を代表して、ここで言っているんですけど。もう前回言って、あなたの答弁も私はきょう控えてきたんですね。

質問に対する今後の取り組み、文章で答える分、そして必要であれば直接話をする必要がある、今後十分注意しながら丁寧に説明いたします、というふうにあるわけです。

私は、その後に副市長に問いかけたわけです。副市長の答弁は、説明責任がある、重要視し、対応していく、強化していく、というような話があるわけですね。私はもうこの部分、あなたの総合政策、課をまとめて、各課をまとめて調整していく、この豊前市の計画というのは、幾つもの計画があって、その1つの計画に各課がいろいろ入りみだって入っているわけですね。そこをしっかりとするためには、その考え方をかえて頂きたい。

そして、しっかり、いま市長は新事業など様々なものを取り組んでおられますが、そこをしっかりと市長と総合政策で協議をしてもらって、各課に下ろしていくような流れ、私はここを強化しないと、もう豊前市の発展はないんじゃないか、いろいろ大変なんじゃない

かというふうなところで、あなたに前回は問いかけたつもりであります。

それをそのように、もう全然、見直さずにするような考えというのは、ちょっと考え直して頂きたいんですけど、如何ですか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

説明が足りなかったところ等、あるかと思しますので、その辺十分反省しながら、対応させて頂きたいと思えます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

ちょっと余り伝わらない部分がありますが、私は、これは市長に理解してもらいたいんですが、この辺を、やはりしっかり強化して頂いて、いろんなこれから政策を行っていく中で、市長の政策が成功するように、議会も連携していきたい、私も連携していきたいという思いであります。そのためには、この計画、しっかり数値を出して、どこがどうなのか、各課の調整、しっかり市長、そして、また総合政策、また各課の総務、財務とあるわけではありますが、その辺の強化を、今後図って頂きたいという思いを込めて、今後、豊前市の政策がますます発展して、市民のためになることを期待申し上げまして、私の質問とさせて頂きます。本日はありがとうございました。

○議長 磯永優二君

黒江哲文議員の質問が終わりました。

次に、平田精一議員。

○2番 平田精一君

豊明会2番手の平田でございます。どうぞよろしく願いいたします。

私も人口問題を中心に質問させて頂きたいと思えます。おもだって中山間地域の活性化、今まで何遍も質問したと思えますが、皆さん、ご存じのように、政府が発表した30年後の人口問題に多くの地方都市が消滅して、若い女性が地方から減少し、ますます地方都市の少子化が深刻な問題になると白書が出ています。そして農業新聞に載っていたんですが、農業就業者が多いまちほど、減少率が高く、農林漁業就業者が10%以上の市町村は、30年間で66.8%まで減ると。2から10だと80%。2%だと88.9%に減ると見込まれると言われていています。ただ、まだ30年後先じゃないかという人もおるかもしれません。だから一気に30年後の人口になるわけじゃないんですね。毎年、毎年減って行って30年後には、下手したら消滅する危機まで出てくる可能性があるということですね。

だったら今、中山間地域に起こっている問題を、どう解決することにより、人口減少を

抑えることができるのではないかということでの観点で質問させていただきます。

そこで質問です。私ども地元におりますと、1人暮らしの方が亡くなると、どんどん空き家が増える状態です。皆あそこが空き家になった、ここが空き家になったと。今現在、空き家バンクを利用していると思いますけど、進捗状況はどうなっているのでしょうか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

ご質問の空き家バンクの登録の現在の状況でございますが、物件の登録が106件、それから利用者登録が222件、その内、登録物件106件に対しまして、48件が契約が成立しております。内訳につきましては、売買が11件、賃貸が37件となっております。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

空き家の数の割には、まだまだ少ないのかなと思いますが、実際に入居されて、賃貸で入ったり売買で入ったり、やはり地元住民との関係が一番心配なんですね。従来住んでいる人とのコミュニケーションがうまくいかないでトラブルになったりとか、よく聞く話なんですけど、そういう問題は起こってないのでしょうか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

利用される方につきましては、より良い地域住民になるようにということの願いを込めまして、いろんなお願いは差し上げております。それで現時点で大きなトラブルについては報告を受けておりません。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

実際、買ったり借りたりして入った人が、いわゆる別荘感覚、地域の共同作業に全く参画しないという話を聞きます。そういった話はないのでしょうか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

何がしかの地域でのトラブルがあろうかと思いますが、細かなことについては、うちのほうに十分情報として入ってきておりません。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

前も一遍、質問したと思いますが、実際、住宅を買って、その空き家が火災になったことがあります。持ち主は博多にいたんですけど、火災になって周りに迷惑を掛けたことがあります。保険に入ってなかったので、保険料が全く出ない。実際いま入ってくる人に、そういう火災保険の勧め、必ず入って下さいということは、やっているのでしょうか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

そこまでの指導はしておりません。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

実際そこまでやってもらわないと、かえって迷惑になる場合があるんですね。毎日住んでない人もおるでしょうし、周りに火が移ったときも火災保険が出ないで、大変なことになってましたので、是非それは勧めてやってほしいなと思います。

今後、増え続ける空き家に対して、市長、どういう対応が良いと思いますか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

空き家問題は、人口増からいきますと、可能性を持ちながら、まだまだその力を発揮できてないという部分もあろうかと思えます。実際には600件を超える空き家がありまして、半分近くが、もう老朽化して使えないだろうと。それをどう処分していくのか、処理しやすく体制をとるのかというのが、1つの大きな問題でございます。

後まだまだ空き家バンクの存在すら、システムすら知らないで、市外に住んでいらっしゃる方も多いと聞いております。そういう方々に対して、今ご指摘がありましたような火災保険を掛ける、自分の責任をきちっと持って頂くというメッセージを、どのようにして送り届けていけば良いのか。そして空き家バンクとして空き家を売買する、また改修して使えるようにして賃貸で貸していくという、そういう空き家バンク制度の中に、理解をして頂きながら協力して参加して頂く、その呼びかけの力が、まだまだ発揮されておられません。努力が足りないと思っております。

いま100件に200人が手を挙げております。100件の内、私が知っている所でも見回りに、見に来る方が結構いらっしゃいますが、あの壁ではね。あの屋根ではね。駐車場がという、個々の問題が、それぞれあると思います。そういう問題をきちっと整理をし

ながら、オーナーにもっていらっしゃる方に伝えていく。そして前向きに借りやすい、売
買しやすい環境を整えていく。そこには、やはり公的な支援というのも必要になるかもし
れません。その辺のところを、いま役所の中だけでやっておりますが、近い将来には地域
の最もよく、そういう状況を掴んでいらっしゃいます区長会の皆さんだとか、民生委員の
皆さんだとか、そういう方々の知恵や力を借りながら、積極的に空き家対策に取り組んで
いきたいと思っております。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

ありがとうございます。是非、広報に頑張って頂いて、廃屋は処理しないといけないと
思いますので、頑張って頂きたいと思います。

次に、地域産業の活性化ということで、やはり今後、高齢化社会になって、60歳以上
の方が長年働く場所がないと、年金制度がどんどん遅くなってきていますし、生活ができ
なくなってくるんじゃないかと思えます。そこで、現在、豊前市で工業団地を整備し、企
業の誘致に取り組んでいると思えますが、企業誘致の実態はどうなんですか。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、大谷隆司君、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

ご質問の企業誘致に関しましては、現在、工業団地を2箇所、造成を進めているところ
であります。現在は、民間の用地を紹介するに至っておりますので、ここ数年で、小さな
企業が何社かという状況でございます。ただ東部工業団地等、誘致した企業は、若干、毎
年、従業員が増えておりますので、その辺を期待して、また事業を進めていきたいと考
えております。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

企業誘致は、なかなか難しくなっているというのは、ラジオなんかで聞くんですね。
企業がグローバル化で、どんどん外国に出ていく。日本に留まらないようになってきてい
ますから、なかなか企業誘致が昔みたいには、難しくなっているのではないかと思
います。そこで、今現在ある中山間地の加工グループとか、今度、新しく水産振興施設、食
堂兼加工品等を設備することになっていますが、そういう所に働き口が増えれば、高齢者、
60歳以上の方が働けるんじゃないかなと思います。後で、また買い物難民のところ
で説明したいと思えますが、そういう産業をつくることによって、いろんなことがカ
バーできるんじゃないかと思っております。

そこで、私がいつもラジオやテレビ、雑誌などを気を付けて見ていると、出てくるのが日本で成功した例で、一番先に出てくるのが、隠岐郡海士町なんです。ここもやはり魚が買い叩かれたりとかしていたのを、CASシステム、セル・アライブ・システムと言うんですか、凍結させるんですね。磁場をかけて震動させることで、細胞組織を壊すことなく凍結させることができ、解凍しても、通常の急速冷凍のようなドリップなどは一切起きず、長期間にわたって鮮度を保持できるシステムであると。だから、これだったら刺身ができるらしいです。魚を獲ったら余った魚をそのまま凍結することによって、東京に発送して、解凍すれば刺身も食べられる。新鮮な物が食べられる。それでかなりの売り上げをあげているみたいです。

豊前市も折角、水産振興施設も作りますし、こういったことは考えてないのでしょうか。

○議長 磯永優二君

農林水産課長、答弁。

○農林水産課長 中川裕次君

おはようございます。魚の加工のお話ですが、現在、豊築漁協の宇島支所のほうでは、荷捌き場におきまして、三坪タイプの冷蔵庫を入れまして、ヨシエビとか、コウイカ等を中心に、沢山獲れたものを一時的に冷凍しまして、その後、使用しているところでございます。新たな水産加工施設におきましても、一時的に沢山獲れることによって、値崩れを起こすような魚種について、加工して冷凍保存しながら販売していくというような方策を、いま検討中でございます。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

課長、この前話したときに、冷凍設備はつくると言っていたんですけど、刺身はできないと言われてましたね。冷凍しても刺身としては販売できないと。このCASシステムだと刺身までできるんですね。凍結でですね。そういったことは、こういうシステムを入れる気持ちはありませんか。

○議長 磯永優二君

農林水産課長、答弁。

○農林水産課長 中川裕次君

CASシステムにつきましては、ちょっと現在、私のほうで知識がございませんので、今後、調査して検討させて頂きたいと思います。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

CASシステムにつきましては、海外を含めて、いま普及段階にあります。ただ価格などの面もあります。そして、いま私たちの所で主流になっておりますヨシエビとイカにつきましては、今そのシステムを使わなくても、十分に刺身などと言いますか、生鮮で使えるような冷凍技術もあります。ただコショダイ、コタイにつきましては、大量に獲れたものを刺身として提供する場合に、そういうものが必要になる可能性はありますので、十分調査をして対応していきたいと思えます。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

是非、前向きにやって頂いて、地元産業を育てるということが、一番大事なことではないかと思っています。中山間地域における加工グループの方たちも、空き家があるんですから、いろんな方法があると思うんですよね。そこに市の助成あたりはできないのかなど。

○議長 磯永優二君

農林水産課長、答弁。

○農林水産課長 中川裕次君

女性農業者、またグループの方につきましては、随時、ご要望等がありましたら、市の特産品開発のための事業や、県の事業等を紹介をしながら、加工場の設置等を進めていきたいと思えますが、現在のところ、加工場を設置したいという相談が出てないような状況でございます。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

なかなかやっている方が高齢化していますので、前向きなことは、なかなかできないのかなと思えますが、是非、背中を押してやって頂きたいなと思っています。

続きまして、買い物難民、もう私も何回か質問させて頂きました。ただ買い物難民は、中山間地域だけではなく、街中においても、高齢化の影響で買い物難民が発生しておるのではないのでしょうか。豊前市のアパートあたりに入っている高齢者についても、同様な問題が生じているのではないかなと思えますが、如何でしょうか。

○議長 磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 藤井郁君

買い物難民の、以前、高齢者保健福祉計画を立てた折に、アンケート調査をいたしました、そのときに各地区ごとでも集計と申しますか、そういった状況が分かるように統計は取っておりますが、現在ちょっと手元に資料がございませんので、その辺、どういう地区

に、どの程度散らばっているというところは、ご報告できませんけれども、申し訳ございません。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

そのアンケートですね、64歳以上の方にアンケートを取って頂いているみたいで、その資料を頂いていますが、将来すぐに利用したいが81件、あれば利用したい132件、今は必要ないが、将来利用したい1604件と、結構、必要率がデータの的に上がっているような気がするんですね。それで、余所の地域がどういうことをやっているかという、北九州市なんかで言うと、1週間に一遍、スーパーのつぶれた所で朝市をやっている。

どこがやっているかという老人会からの依頼で自治会がやっているんですね。もう自治会長が会員が、困っている人を助けたいという使命感もある。今後は配達に力を入れ、皆と力を合わせて続けていきたい、とありますし、中津市の耶馬溪のほうもNPO法人、10人が立ち上がって、いわゆる商店を、無くなった農協の跡地にやっているわけなんですよね。そういうふうを考えていくと、買い物難民を解決するには、やはり商業的に考えるんじゃないで、やはり福祉的というか、ボランティア的に考えなくちゃ、うまくいかないのかなと思っていますが、その点、いかがですか。

○議長 磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 藤井郁君

いま議員さんのほうから、お話がありましたとおり、昨年8月にアンケート調査を実施いたしまして、それで約8割の方が、将来的な希望を含めまして、配達等のサービスを行っている事業所があれば利用したい、というようなお声を頂いております。

それに基づきまして、商工会議所さんのお力を借りまして、市内の二百数十の事業所に配達等のサービスを実施している状況、それと買い物に支援を寄せる方への支援というところから、ご協力を頂きたいということで、お願いを申し上げたところ、市内60事業所で実施ができます、というご回答を頂いております。

それと市内の事業所と、あと市外からも市内の配達に回っている事業所もありますので、そういったところの情報を合わせまして、現在、一覧表として作成しておるところです。ただ、その利用の手続き等、なかなか高齢者の方は分かりにくい方もいらっしゃるかと思いますので、そういった利用の手続き等についても、民生委員協議会等々と協力いたしまして支援しながら、買い物に困難を感じている方の支援につなげたいという具合に考えております。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

後で聞こうと思っていたんですが、事業者へのアンケートですね。結構な業者が配達してくれるということで、ありがたいことだと思っておりますが、逆に商業的に考えて、何か政策みたいなものはあるんですか。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

昨年もご質問頂きまして、本市でも喫緊の課題として、福祉政策のみならず、商業振興策の1つとして、県の事業や国の事業を紹介しているところでございます。

昨年、議員さんも言われました出向く商店街事業、これを行橋市の商店街が実施しております。この例を出しまして、豊前市内の業者、商業者にもご紹介をいたしました。

本年度は、ちょっと事業の名前は変わりましたが、事業は継続しておりますが、昨年、1社ご相談には見えましたが、現在のところ実施には至っておりません。以上です。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

買い物難民という言葉はあまり良くないんですが、やはり地方のコミュニケーションをつくるためにも、買い物するということは、顔を合わせるということは、とても大事なことではないかなとは思っています。今後どんどん、そういう事業をやって頂きたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

続いて、ちょっと飛びますが、介護保険のことについて、お伺いしたいと思います。豊前市でもそうですし、全国的にもそうですが、これから団塊の世代が迎える大介護時代を迎えようとしていますが、介護保険は、自治体によって格差があると思います。

豊前市の今の実態は、どのような仕組みになっているのか、高いのか、安いのか、お伺いしたい。

○議長 磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 藤井郁君

まず、介護保険料というところでの答えでよろしいでしょうか。

豊前市は、現在、福岡県介護保険広域連合に属しております。広域連合の中では、保険料の負担の均衡化を図るために、ABCの3グループに保険料を分けております。

豊前市は、現在、Bグループということで、中間的なところでございます。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

中間ということで、もうこれから介護保険がどんどん上がっていくことは、良くないことだと思いますし、本人も高くなるし、市の負担、財政にも響いてくるのではないかと思います。そこで要介護にならないために、豊前市の事業を行っていると思いますが、どういった事業を行っているのでしょうか。

○議長 磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 藤井郁君

代表的なものを挙げますと、介護予防事業ということで、口腔ケアに取り組みます、かむかむ教室、26年度は5箇所の実施を予定しております。それとエアロバイクを使った健康教室、生き生きエアロ塾、これも市内、今年度5箇所で実施予定でございます。

続きまして、柔道整復師によります介護予防運動として、ころばん塾、これも市内5箇所で実施の予定でございます。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

3教室あるみたいですけど、実態として何人くらいの参加者がいらっしゃるんですか。

○議長 磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 藤井郁君

かむかむ教室につきましては、1箇所、定員が10名とさせて頂いております。生き生きエアロ塾については、1箇所定員20名、ころばん塾につきましては、1箇所10名ということになっております。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

まだ、ちょっと参加者が少ないような気がするんですね。どんどん広報しながら、豊前市の財政に負担にならないように政策、事業をしっかりとやって頂きたいと思います。

そこで、いま2点挙げましたね。空き家バンクは別にして買い物難民、60歳以上からの仕事を探すと介護保険、この3点というのは、耶馬溪でやっている買い物難民のための施設なんですけど、全部関連しているような気がします。高齢化時代の方が、今後、年金生活に入って介護保険を支払う義務が継続してくる。それを継続するために商品売ることによって、年金以外の収入を確保できる。そういう働くことによって、いわゆる要介護、

要支援にならないで済む。だから買い物をすることによって、地方のコミュニティーができる。全部関連しているような気がするんですね。だから、どこかを1つまとめてやれば、ずっとグルグル回ってくるのではないかと思います。そういう政策はないですか。

○議長 磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 藤井郁君

議員さんのご指摘でございますように、福祉関係は福祉関係というところで、それぞれ縦割りの部分で議論しているところがございますけども、先程、まちづくり課長のほうからも答弁がございましたように、それと議員さんご指摘がございましたように、先進自治体の事例等も参考にしまして、関係各課と、また協議検討していきたいと考えております。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。こういうときに総合政策があるんだよ。

○総合政策課長 栗焼憲児君

現在、機構改革の中で、生涯現役推進係というものが、私どもにできまして、庁内で今ご指摘頂きましたような内容を含めて、どういう取り組みをしていくべきかということで検討させて頂いております。今ご指摘頂きました内容を十分参考にさせて頂きながら、協議を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

しっかり視察でも行って、勉強して頂きたいと思っております。これから先、なおさら中山間地域が高齢化率が上がってきますし、こういう問題がどんどん出てくると思っておりますので、よろしく願いいたします。

次に、いよいよ高速道路が、さっき議長が言われたように1年間延びますね。開通まで延びますけど、もう高速道路の完成も間近になっています。

そこで観光問題について、お伺いしたいと思います。

観光問題と言っても大したことはないんですが、南部グラウンド、天地山公園、ああいう公園についているトイレですね。先日もホテル祭りがありましたように、あの会場を使う。ゆず祭りであの会場を使う。どうしても高齢者、脚の悪い、腰の悪い人が来る。

そこで言われたことが、洋式トイレがないため、トイレには行けない。折角ゆず祭りに来ても早々と帰って行くしかできないですね。豊前市の公園あたりのトイレ事情は、どうなっているんですか。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

現在、まちづくり課で管理しております観光施設のトイレについての状況でございますが、殆どのトイレに洋式の便器を設置している状況でございます。また近年設置したトイレにつきましては、障害者用トイレを設置しております。ただ、いま言われました天地山公園につきましては、公園内のほうの箇所には、洋式トイレを設置している所がございますが、グラウンドのほうのトイレには洋式はございません。今月中には新しいのを設置する予定にしております。

また観光客をもてなしする上で、トイレは大事なアイテムの1つと考えておりますので、順次改修を進めて洋式トイレ、できれば浄化槽の付いたトイレを進めていきたいと考えております。以上です。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

しっかりやって頂きたいなと思っています。今後、観光客が来たときに、たかがトイレ、されどトイレなんですね。トイレが汚いと、そのまちのイメージまで汚く思えるのではないかと考えています。余所の地方都市なんかを見ていると、観光に力を入れている所は、公園清掃車というのが、グルグル回って、いわゆる市が管理しているトイレは、毎日、毎日、全部清掃して回っています。だから、いつも綺麗な状態にあるんです。トイレトペーパーもしっかり入っていますし、だから豊前市も、そういうふうにする考えはないんでしょうか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

その辺、各課で所管している施設等もございますので、調査した上で調整してまいりたいと思います。

○議長 磯永優二君

あのね、道の駅が最初、日本一のトイレ運動をしたときに、あんなのが成功するかというところでスタートしたんですよ。見事にあの日本一のトイレがつくる、それだけで成功してるんだから、いま議員が、いつもいつも同じことを言って、答えは全く出らんやろうもん。行政のほうは何を考えとるのか。ちゃんと順番を付けて、やるならやる。やるならいつやるということ、ちゃんと出さな、いつもいつも議会度に、こんな話しかできんやろうもん。そのための総合政策やら。それをまとめきらんやったら、総合政策はいらんぞ。ちゃんと心決めて答弁なり計画を立てるごとせな。

平田議員。

○2番 平田精一君

しっかりやって頂きたいなと思っています。今後、運が良いか悪いか、1年間延びました。豊前市で一遍、高速道路を降りる。それはある意味では1年間、観光においてはチャンス。だから今のうちにしっかりやらないと、また完成したら通過道路になってしまう可能性がありますので、いろんな面で考えてやって頂きたいなと思っています。よろしく。

後ですね、中学校の問題について、お聞きしたいと思います。これはちょっと質問事項をちょっと変えましたので、あれなんですけど、新聞なんかを見ていると、政府が小中一貫校制度化の検討を始めているということですね。いわゆる小中一貫校にして授業をしやすくするというですね。5・4制とか、いろんなタイプがあるみたいですが、今後、今すぐでは、まだ決定しているわけではありませんので、豊前市として、どういうお考えでしょうか。合河とかですね。

○議長 磯永優二君

教育長、答弁。

○教育長 戸田章君

議員ご承知のように、現在、非常に教育改革が教育委員会を含めて、内容が大きく、国の政策で変わろうとしております。いま議員が言われたような形で、特区という形で申請をして受けるという方向から、独自にやれるような1、2年後には、そういう計画があるやに聞いております。まさしく、この地域にあった教育内容を、これからは、つくり上げていかなければならないというふうには考えております。これからは、そういった意味では、教育委員会のあり方、あるいは学校のあり方というのは、独自性を出さなければならないというふうに考えます。以上です。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

3月議会でも質問しましたが、英語教育がどんどん入ってくるということで、小中一貫校にすることによって、英語教育がスムーズに行くのではないかなと思っています。

小学校から中学校に、同じ英語の先生が系統性とか、連続性を重視して英語教育が可能になると言われていますけども、その点は、如何ですか。

○議長 磯永優二君

学校教育課長、答弁。

○学校教育課長 武道和宏君

お答えいたします。本年度から、市独自で英語担当教員を雇用しておりますが、小中一貫につながる英語教育を目指して、小学校1年生からの英語活動、義務教育9年間の英語カリキュラムの作成、あるいは、校舎内の掲示板や壁などを利用した英単語などの掲示な

ど、英語に自然と、また楽しく親しんでもらえるような環境づくりに取り組んでいるところ
です。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

この前、テレビを観ていたら、留学生の争奪戦が始まっているということですね。
韓国に留学する人が多くなって、日本には、なかなか来なくなった。だからそこまで、い
わゆる勉強ばかりという意味ではなくて、そういう国際的に考えて英語教育というのは、
一番大事なことではないかなと思っていますので、しっかりやって頂きたいなと思ってい
ます。

続きまして、先日も高校3年生ですか、事件に遭って殺害されたりとか、いわゆるスマ
ートフォンとかタブレットで、犯罪に巻き込まれることが多々あるみたいなんですね。

だから今の小学校、中学校生には、どういう指導をされているんでしょうか。

○議長 磯永優二君

学校教育課長、答弁。

○学校教育課長 武道和宏君

お答えいたします。携帯電話やスマートフォンは、私たちの日常生活に欠かせない、非
常に便利な通信機器ではありますが、使い方次第では、事件・事故につながりかねない危
険なものとも言えますので、児童・生徒には、これらの機器の正しい使い方を習得させる
ために、情報モラル教育を行っているところであります。

特に、中学校では、道徳の時間、あるいは技術の学習の中でもやっておりますし、講演
会等においてもネットワークの役割りとか、情報モラルについて学んでいるところです。

また保護者に対する研修ということで、保護者にも参加を呼び掛けて、昨年度も行いま
したし、今年度も行う予定にしております。家庭内でも親子でルールを決めるなどの取り
組みも要請していきたいと思っております。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

しっかりやって頂きたいなと思っております。何か制限が入るやつがあるでしょ。私は余
り詳しくないので、情報がそれ以上入らないようなことができると思いますので、しっか
りやっていかないと、もう凄い情報がどんどん入ってきますので、百科事典どころじゃな
い状況だと思いますので、しっかり管理してやって頂きたいなと思っております。

以上、質問しましたけど、一応質問を終わりましたので、終わりたいと思います。

ありがとうございました。

○議長 磯永優二君

豊明会の2人の質問が終わりましたが、議事運営上、ここで暫時休憩をし、昼から再開後に豊明会の一般質問を再開いたしたいと思えます。

ここで、暫時休憩いたします。

休憩 11時59分

再開 13時08分

○副議長 山崎廣美君

休憩前に引き続き、会議を開きます。

一般質問を続行します。

豊明会の質問を続けます。鈴木正博議員。

○4番 鈴木正博君

職員の皆さん、お疲れ様でございます。

お昼の満腹したところで、私もよく昼寝をしているんじゃないかということで、議員の皆さんから追求されたこともあります。是非、真摯に回答をよろしくお願ひしたいと思えます。では、3人目、鈴木でございます。市長はじめ職員の皆様には適切な回答を、よろしくお願ひします。

では、最初に行政への住民参加、参画、協働のことについて、お尋ねしたいと思えます。豊前市では、近年、市民との間で、各種の事業、イベントを開催し、事業の開催と行政への住民参加、参画、協働によるまちづくりが進んでいると思えます。先日、6月7日のホテル祭り、来週行われる枝川内あじさい祭り、来月にはみなと祭り、花火大会が開かれます。

毎月のように住民と行政が協働で行う事業が行われます。今や全国で行われない地域、地区はないと言われております。それは、まちの活性化や観光客誘致であったり、人口増、新たな住民の囲い込みもあると思えます。そこには、何らかの目的意識、仕掛けがあります。強い思いがあるほど、結果、成果が気になり、評価も必要になります。

時間、お金、人手、人の思いもあります。豊前市議会では、費用対効果について、多くの質問をしたことがあります。そこで、お尋ねいたします。

豊前市の主要イベントで住民の参加、参画、協働での事業展開を説明して下さい。

○副議長 山崎廣美君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

今ご質問頂きましたイベント等についてでございますが、住民参加を促しながら、地域の活性化等につなげていきたいということで、市全体にまたがるもの、それから地域で行って頂いているもの、いろいろな事業、イベントがございます。その中で、やはりこうし

たイベントが盛り上がる最大の理由としては、地域の皆さんが自ら企画、運営をすることで当事者意識が極めて高いということ、そして、いま議員がおっしゃいましたように、その思いが高いという部分で、やはり行政としましては、こうした住民の皆さんの自主性を尊重しながら、また必要な支援を行うことで、地域の皆様の活動を応援してまいりたいと考えております。

○副議長 山崎廣美君

鈴木議員。

○4番 鈴木正博君

それぞれのイベントに目的があれば、その成果、評価が必要になると思います。

そのイベントについてですが、それぞれ反省、評価をしているかどうか、お尋ねします。

○副議長 山崎廣美君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

市主催の事業につきましては、それぞれのイベントが終わった後に、職員等で反省会をしておりますし、主要な参画のメンバーには、それについて、一緒にご意見を伺っているところであります。以上です。

○副議長 山崎廣美君

農林水産課長、答弁。

○農林水産課長 中川裕次君

農林課が関係している、おさかな祭りなり、合河ゆず祭りにつきましては、それぞれ実行母体がございます、開催後、反省会を行っております。出来る限り行政も、そういった席に同席しながら、次回につなげるよう努力しているところでございます。

○副議長 山崎廣美君

鈴木議員。

○4番 鈴木正博君

よくある反省会では、困ると思うんですね。飲み会で反省が終わりましたということでは困ると思います。それは、行政のほうはできるかと思いますが、協働のイベントについては、なかなか難しいところがあると思いますけど、一定の様式によって、紙に結果なり評価を残すということが必要じゃないかと思います。

それは次回、開くときに反省は勿論、結果の分析をしながら、未来に向かって展開し、発展することがイベントが存続する意義じゃないかと思います。俗に言う何回もやったら、ダラダラ続けていくというようなことでは、非常に困ると思うんです。もし、それがなければやめるというようなことも必要かと思います。ただやめるということは、非常に難しいかと思うんです。そういうためには、やはり一定の評価を、一定の様式ですること

が必要じゃないかと思えます。

先日、テレビを観ていたら、宇佐市で柚子の年間オーナーになりませんか、というような放送がありまして、1万円ということでありました。ホームページを開くと、平成25年からそれがあるようで、柚子の年間オーナー制度が定着しつつあるようです。

1本1万円出したら柚子狩りと言いますか、柚子を取ることもできますし、それから体験として柚子の剪定とかできるようです。

それは1つの例ではありますが、1つの事業をやるについては、発展的な面が必要かと思えます。特に費用を出すわけがございますから、それについて、地域の当初の目的、地域の活性化が多いんじゃないかと思えますが、地域が活性化するように、もしかしたら人口増とかに役立つような、発展的な考え方を持って、イベントを進めていってもらいたいと思えます。そして、市民の行政への積極的な、そういう考え方を、アイデアとかを出していったら、前向きな姿勢の関わり方になると思えます。

豊前市も若い職員が増えたわけでありますから、その発想を転換したような形で、若い人の発想と行動力に期待して、イベントを進めていってもらいたいと思えます。

この件は期待と、お願いということで、終わりたいと思えます。

次に、コミュニティーと地域自治についての質問をしたいと思えます。

平成23年3月に制定されました豊前市生涯学習推進基本計画は、いきいきと活動する質と、そして自立する地域、そして豊かなまちへ、を基本方針としております。

私も生涯学習、社会教育に携わって長いんでございますが、そもそも生涯教育の考え方は、昭和40年にユネスコで提唱され、日本に紹介されております。高度成長期を経て、人々の生活も大きく変化し、教育や学習に対する要求も社会の変化とともに高度化、多様化してきました。

昭和46年、時代の変化や国民の要請に応えるため、学校教育と家庭教育、社会教育が有機的に結びつく必要があるとして、社会教育審議会で急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方についてが、答申されております。

それから10年後、昭和56年には、中央教育審議会から答申、生涯学習についてが示されました。その後、平成2年に生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律が制定され、生涯学習の支援の方法が法的に整備され、生涯学習の理念に沿った施策が講じられてきました。以後、各自治体で生涯学習に関する基本計画とか、推進計画が出されております。

豊前市では、平成9年度に示された豊前市における生涯学習推進方策について、というものが示されております。最初は、進展するかと見られましたけれども、現在に至っているように、なかなか推進しておりません。そこで、お聞きします。

今年度、総合政策課から新しくできました生涯学習課に、豊前市生涯学習推進基本計画

が移管されたと思います。教育委員会として、どのような認識をされているか、教育長のお考えを、お聞きしたいと思います。

○副議長 山崎廣美君

教育長、答弁。

○教育長 戸田章君

機構改革で、今回2課に分かれました。その中で、生涯学習課として今後、具体的に、いま鈴木議員が言われたような方策を、推進していかなければならないという中で、特に管轄しておる公民館活動の推進を中心に、これから、より効率の良い拠点という形で、1つの例として推進したいと考えております。以上です。

○副議長 山崎廣美君

鈴木議員。

○4番 鈴木正博君

次に、豊前市生涯学習推進の仕組みを見ますと、地域の住民組織の把握と、それを組織する体制が大変重要になると思います。元々が社会教育、公民館で活動している組織なので、現在の地区での自治組織を把握できていると思いますが、それぞれの地区で人口の違い、地域の形状等で地域間格差があると思いますが、どう考えますか。

○副議長 山崎廣美君

生涯学習課長、答弁。

○生涯学習課長 佐野京一君

議員ご質問の各公民館での主催事業という形でのご質問かと思いますが、各公民館で年間5回程度、ふれあい学級、その他、住民主催による各種教室、また体育協会、文化協会、老人クラブ、人権センターの地域支部など、いろいろ公民館によって行っている役割りというものは違ってきていると考えております。

○副議長 山崎廣美君

鈴木議員。

○4番 鈴木正博君

それから、地域での活動拠点となる場所は、たぶん地区公民館が拠点となると考えますが、公民館の運営方法等、大幅に変更するように考えているようでございますが、個々の場合によっては、生涯学習の推進に大きく支障を来たすのではないかと考えますが、どうでしょうか。

○副議長 山崎廣美君

教育長、答弁。

○教育長 戸田章君

管轄を教育委員会の所管でなくて、NPO法人とか、そういうような取り組みというこ

とのご質問かと思いますが、総合政策のほうより、そういう話で、それぞれの代表で協議会を作り、そこで論議をしております。その論議を踏まえて、将来的なことは考えなければいけないとは思いますが、現時点で市の公民館と言いますか、管轄、それから地域公民館として、例えば八屋公民館なんかは、地域公民館を兼ねておりますので、そういうところは非常に難しい部分があるかと思いますが、将来的には、どういう方法が良いのかということも含めまして、公民館のあり方も検討しなければならないとは考えます。

○副議長 山崎廣美君

鈴木議員。

○4番 鈴木正博君

移管されてから間がないので、その辺は主管課として、教育委員会と考えがまだできにくいのかと思いますけれども、私も教育長と同じように、公民館長という職をしたことがあります。各公民館、もしかしたら公民館によっては、公民館長が主体的に指導しながら、公民館の事業等を行っているところがあるかと思います。それがもしかしたら過半数に近いところじゃないかと思います。

それをさっき教育長が言いましたけども、NPO法人とか、単に地域に委託する、もしかしたら、財政的に安上がりになるような考え方を持っているんじゃないか、と思われるところがあります。そういうところで、これから公民館の館長会議等で話をされて、各地域で受入れをして頂くようなことになると思います。

そういうところで、もしかしたら、できる地区から、地域からということになるかと思いますが、その辺を慎重にしないと、もしかしたら地区で生涯学習を推進しようと考えても、誰がやるんかということになりかねないところがあります。

豊前市では、従来から、おんぶに抱っこではありませんが、行政主導型で事業を進めてきた経緯があります。その辺は教育委員会できよく考えながらやってほしいと思います。

それから、これは2人の豊明会の議員の質問の中にありましたけど、今回、私が質問したこともありますけども、それぞれの重要な計画があります。それぞれ主管課があつて、それぞれがやらなければならないと思います。ここに豊前市総合計画というのがありますけども、主管課長になったら、はっきり言って自分の守備範囲ですね。

この総合計画の中に示されることは、はっきり言って自分の仕事だと思って、まず最初に勉強してほしいと思います。また勉強してほしいだけじゃございません。これを進めてもらわなくては、豊前市前向きにいかないということで、総合計画が出来上がっているんでございます。だから、そういう意味で言えば、真剣にそれぞれの課の計画を、もうその課長になったら、すぐに把握しながら、自分のもしかしたら1年か2年の間しか、その課にいないかもしれませぬ。しかし、その1年か2年の間に、それを実現するような形で熱を入れたことでやってほしいと思います。

課長によっては、ほけほけして、ちょっと1、2年お茶を濁したら、すぐかわるからいいんじゃないかというような、従来、今の課長ではございませんが、私らが課長をやっていた頃、そういう考え方もあったようですけれども、そういうことのないように、是非、真剣に取り組んでもらいたいと思います。

というのは、午前中、平田議員が30年後というお話がありましたけれども、30年後に日本国内で、自治体の機能を失くなる自治体が、私の記憶が、ちょっと間違いかもわかりませんが、869くらいあったかと思います。そういうことで、豊前市も、はっきり言って、いま高齢者の問題が出されておりますけれども、私も高齢者、後30年経ちますと、私はおりません。戦後のベビーブームに生まれた人たちはおらないわけですね。

ですから、高齢者がいるといっても地域に、その高齢者もいなくなるわけです。その前に、はっきり言って、この第5次豊前市総合計画が、ある程度進展しなければ、もしかしたら豊前市も、あと30年後には、存在しない自治体になるかと思います。

そういう意味で、前に座られている市長はじめ各課長が、一生懸命これに取り組んでいってほしいと思います。

以上で、私の質問を終わりたいと思います。

○副議長 山崎廣美君

鈴木正博議員の質問が終わりました。

以上で、豊明会の質問を終了いたします。

ここで議事運営上、暫時休憩いたします。再開は放送いたします。

休憩 13時30分

再開 14時00分

○議長 磯永優二君

皆さん、こんにちは。休憩前に引き続き、会議を開きます。

一般質問を続行します。

只今より、同志会の質問を行います。はじめに、福井昌文議員。

○5番 福井昌文君

一般質問初日の最後の質問を行う同志会の福井です。執行部の皆さんの前向きな答弁を期待し、質問に入ります。

まず、天地山多目的グラウンドについてであります。天地山多目的グラウンドは、ソフトボール、サッカー、グラウンドゴルフなど、様々な競技が行われているようであります。また市外からの利用者もかなり来ていると聞いていますが、利用人数は、年間どのくらいですか。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

天地山多目的グラウンドにつきましては、グラウンドの利用状況は、先程言われましたように、サッカー、ソフトボール、グラウンドゴルフを中心として、年間約1万4500人の利用がございました。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

その中で、市外・市内のたまかで良いんですけど、利用者の内訳はわかりますか。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

サッカー等で大会等が多くございまして、利用者、参加者で市外、市内というのはなかなか分けづらいところがありますが、昨年99回の申し込みがございまして、申込者の住所で言いますと、市内が59、市外が40でございます。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

市内が59、市外が40ということで、資料を頂いていますけども、合計が99でありますから、半分弱が市外から来ている方々ですね。

利用人数が1万4460人、約1万5000人くらいで、市外から来ているのが5000人くらいかなと、単純に計算して思うわけでございます。そして、天地山の使用料は、どのようになっていますか。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

現在は都市公園の一部として管理をしておりますので、使用料は無料となっております。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

無料ということを知っていますが、やはりタダというのは、貸すほうにとっても借りるほうにとっても、あまり良くないと思うんですよね。私は思うんですけど、市外からの利用者、僅かでも良いんですが、近隣の平均以下の使用料を頂いて管理費とかに充てるといのがベストじゃないかと思いますが、その辺のお考えは。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

以前、検討したことがあるということを聞いておりますが、現在のところ取っておりません。今のように利用者が増えてくれば、当然、管理費等も嵩みますので、利用料金は十分考えられると考えております。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

是非、取って頂いて、管理もそれで充実してくると思うんですけど、調べたところ、管理費が年間400から500万円ですか、掛っていると聞いたんですが、これは間違いないですか。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

管理費については、グラウンドのみで管理委託をしているわけではございませんので、はっきりした数字は入れられませんが、草刈で約429万円、それからグラウンド整備で257万円、あと他に水道料等が入っていますので、これはグラウンドのみだけではなく、天地山の周辺、それから凱旋池の周辺、駐車場も含めたところではございますが、そういう経費になっております。以上です。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

いま言ったとおり、およそ400から500万円と聞いているんですが、この半分くらいでも使用料を取れば賄えるんじゃないかと思います。なぜなら、いま現時点では、市の税金から賄っているということなので、是非、使用料を取って頂くほうに検討して頂きたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

市の内部で十分協議をして、前向きに進めていきたいと考えております。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

市長、その辺のお考えを教えてください。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

確かに財源が豊前市、少のうございます。こういうところ、市外の人たちにも気持ちよく利用して頂くためには、ご指摘頂きましたように、一部有料と言いますか、有料化について、検討していかなければならないと思いますので、執行部のほうで少し時間を頂いて研究したいと思います。よろしくお願ひいたします。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

是非、使用料を取って頂いて管理費、また充実した競技ができるようお願いしたいと思ひます。

そして、いろいろ競技をやっているみたいなんですけど、この前、3月ですか、サッカーの大きな大会があったと聞いておるんですが、そのときに近隣の方々の苦情が出て、担当の方々が大変な思ひをしたと聞いているんですが、その辺の苦情は聞いていますか。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

苦情等、直接、私がお受けしました。当日がちょうどかなりの人数の、600人くらい参加の大会がございまして、風が強かったために、かなりの埃が民家のほうに行って、ご迷惑を掛けたということで、謝りに行ったところでございます。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

もう前々から話を聞いたら、私もちょっと子どもがやっていることなので、近所の方々、ちょっと目をつぶってもらえないかなと思ったところもあるんですが、話を良く聞いてみたら、やはりすごい埃が舞うんですね。洗濯物も干せない状況といったようなところがありますので、その辺の課長、対策とか何かお考えでしょうか。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

通常の整備に関しましては、風向きをよく考えて整備等を行っておるのですが、大会当日となりますと、なかなか急に止めるわけにいかないの、ご迷惑を掛けているような状況でございます。

また水道管に近い所では、事前に水をまいたりできるんですが、グラウンドが広くて水道が届かない所が大部分でございますので、いま現状に苦慮しているようなところでございます。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

池側の方ですかね、水道があるのは。そして山手側のほうは届かないと聞いているんですが、水道をまいても天気の良い日、すぐにあそこは乾きますね。そしてグラウンドもガチガチな状態に、すぐになるわけですね。水をまくのも、向こうに水道をひいても同じ状況と思うんですよ。分かりますかね、課長。それ以外の対策方法は、何かお考えですか。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

それ以外の対策と言いますと、後はもう薬剤の散布、それから植林等で対応するしかないと考えております。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

薬剤というんですか。というのは、どういうことですか。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

ちょっと、はっきりは忘れたんですが、塩化カルシウムを事前にまいて、埃が立たないようにするということができるんですが、何せ広いグラウンドでございますので、かなりのお金がかかります。また効果が夏場になると2日、3日で切れてしまいますので、なかなかいつもまくというわけにはいかない状況であります。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

やはりスポーツをする場所なので、それはまた埃がまって、児童の目とかに入って、多少問題があると思いますが、その辺は問題はないんですかね。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

薬剤に関しましては、通常、グラウンドでまいている分でございますので、問題はございません。ただ、なかなか球場とかではございませんので、天地山グラウンドでは、もう常時まいてるとかいうことは、しておりません。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

課長、私は何回か、この壇上でも言ったんですが、芝にする、人工芝か芝ですね。安いほう、経費の掛からないほう、いろいろありましようけども、そういった方向に、そろそろ豊前市も持っていったほうが良いんじゃないかなと思いますが、その辺のお考えは。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

もっともなご質問だと思います。子ども達が、やはり運動というスポーツという舞台上、薬剤をまくというのは、心配な点もあろうかと思えます。先程、樹木というのは、フェンス沿いに、いま青豊高校にありますような、あれがかなり軽減化されるというのも聞いておりますし、芝生化につきましても、芝生にすれば非常に良いというのも分かっております。ただ、大量の水が必要になるということと、管理が大変でございます。

先程の有料化を含めて、そういう面も研究をしてまいりたいと思えます。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

多目的グラウンドという名前が付いております。また近隣、また余所に負けないようなグラウンドにして頂きたいと思えます。

行橋の蓑島ですか、それもサッカー、また多目的グラウンドを含めて芝にするという話しを聞いておりますけども、もうそろそろ豊前市もサッカー人口を踏まえて、検討したほうが良いんじゃないかなと思っております。

資料を見れば一目瞭然なんですけども、25年度を見れば、合計延べ人数が1万4460人、この内、サッカーが8460人なんです。ほかにサッカーをやる所が豊前市はないんですよね。ここが一番広い面も取れるということでやっています。

是非、芝の検討もお願いしたいと思えますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

それでは、次の質問に移らせて頂きます。順序がちょっと変わりますけども、2番目に教育問題について質問させて頂きます。小中学校の教育は、将来、進学や就職する上で極めて重要な義務教育だと考えます。豊前市の教育委員の皆様、教育長をはじめとする教育委員会の方々も、学校教育と教育行政に日々努力していることだと思えます。

私も文教厚生委員長の立場から、子どもの教育は平等でなければならない。ましては他の市町村と格差があってはならないと思っています。そのような観点から幾つか質問させて頂きます。

1つ目に、社会見学等で使用するバスの状況を教えてください。

○議長 磯永優二君

学校教育課長、答弁。

○学校教育課長 武道和宏君

お答えいたします。社会見学や修学旅行、その他、校外活動等に伴う保護者負担については、それぞれの活動に要した経費に応じて案分して、保護者負担で実施をしているのが実情であります。ですので、学校によっては、保護者負担は異なっております。

そこで必要以上の負担とならないよう、各学校において配慮しているところではありますが、今後とも家計への負担は、必要最小限度になるよう配慮しながら、学校での種々の活動を行い、効果的な学習活動となるよう、教育委員会としても指導していきたいと考えております。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

課長、豊前市の今現在の状況を、ちょっとお聞かせ下さい。

○議長 磯永優二君

学校教育課長、答弁。

○学校教育課長 武道和宏君

今の豊前市の状況というのは、少し、ちょっと質問の趣旨が分かりかねるので、もう一度お願いしたいと思いますが。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

豊前市で、小学校、中学校も行くかもわかりませんが、そのとき、バスの使用料とか状況ですね。どういうふうに、どこのバスを使っているとか、そういうふうなのを、お聞かせ下さい。

○議長 磯永優二君

学校教育課長、答弁。

○学校教育課長 武道和宏君

お答えいたします。小学校では、特に4年生の社会見学、それから、5年生の自然体験学習、これは宿泊を伴う研修のようですが、主に、この2つで全ての小学校が活用してお

ります。一昨年までは、全て貸切りバス等を各学校で手配をして、その経費を保護者割をして負担をして頂いたようですが、昨年に限っては、市のマイクロバスも勿論、現職の教員が同行すればという前提ですが、その場合には、市のマイクロバスも使えるということに25年度はしたようですが、ただそうすると、使いたくても使えない学校、つまり26人乗り、運転手を入れて26人乗りのマイクロバスなものですから、使える学校が限られてきて、学校間で不公平が出るということで、その分については、また今年度から民間の貸切りバスを使うといった対応をしているようであります。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

課長、それは、ちょっと分かりやすく言えば、豊前市の方針は、市の総務課のバス、25人用ですね、これを使えば、バスの運賃は頂かないと。そして、それに乗れないために貸切りバスを借りたときは、保護者が負担するというのが基本ですよ。それで格差があるので使えないようになったというのが、これが事実じゃないんですかね。

○議長 磯永優二君

学校教育課長、答弁。

○学校教育課長 武道和宏君

福井議員のおっしゃるとおりであります。学校間で不公平感が出ていると。それを解消するために、昨年1年間で市のマイクロバスを使用するのは廃止したということのようです。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

近隣も、課長に、ちょっと調べて頂いたんですが、上毛町あたりは25人バスを使用し、燃料費、運転手代、町が負担ということも聞いています。そして上毛町は、25人以上の学級が殆どないと聞いているようであります。そして築上町に関しましては、42人、32人、25人乗用のスクールバスを所有、これで殆ど賄えるということですね。

そして、行橋と吉富町は、自己負担ということ聞いています。

だから豊前市も、これは必須で決められているようでありますけども、小学校4年になれば社会見学に行く。5年になれば宿泊研修に行くということが、これは決められているようにありますので、絶対にバスが必要となるんですね。そこで私は余所の近隣の市町村と差がないように、貸切り、25人を超える学校が貸切りバスを借りるとしたら、それも市が負担してやるべきではないかと思うんですが、その辺は、どうお考えですか。

○議長 磯永優二君

学校教育課長、答弁。

○学校教育課長 武道和宏君

教育委員会としては、子育て支援の充実を図るという観点から、出来る限り保護者への負担は求めたくはない、というのが実情なんですけど、ただやはり一方で、財政面も考慮しないといけませんので、その点については、市長、副市長、あるいは財務課等々と協議をしてみたいと思います。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

市長、お答えをもらいたいんですけども、25人を超える学級というのは、豊前市でもあまりないと思うんですけども、だから、それを超える貸切りバスを借りても、そう負担がないような気がしますけども、その辺は、やはり保護者負担が微々たるものかも分かりませんが、やはり余所と格差がないようにしていくのが、私は教育の一環だと思いますけど、お考えをお聞かせ下さい。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

子育て支援という観点からすれば、保護者に負担が少ないようにというのが、やはり我々が目指すところでございます。ただ現実には、今お話がありましたように、公平性というのを観点に置きますと、どうしても、やはり有料になっている部分に合わせざるを得ない、という選択をしたように認識しております。ただ、これは出来るかどうか分かりませんが、いま図書館などの公的施設を、お互いに各市町で使えるようにしようと。町民、市民同等に使えるようにしようという観点もでございます。

日程次第ではございますが、築上町の42人乗バスが、日程次第では借りることができないのかどうか。その辺も含めて情報を集めたいと思いますし、どのようにすれば負担の少ないほうに合わせた、ご指摘頂きましたような公平性が保てるのか、少し時間を頂きたいと思います。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

是非、こういったことは、保護者の皆さんに分かりやすいことなんでね。余所と比べて、うちはバス代は取りよると、うちは取っていないと。こういうことは保護者にとっては分かりやすいので、是非、他の市町村と格差のないように、今後とも努力してもらいたいと思います。

次に、少人数学級について、お聞きしますが、全国的にも生徒1人ひとりに目が届く少人数学級の推進が進んでいますが、豊前市の状況をちょっと、お尋ねします。

まず、豊前市の小中学校で、40人に近いような学級数は、どのくらいあるのですか。

○議長 磯永優二君

教育長、答弁。

○教育長 戸田章君

お答えいたします。豊前市の場合、40人学級というような形で、それに近いような数字が35を上回る学級数が3つございます。その中で、1校は研究指定等を受けまして特別な加配がございますので、その方を当てて解消しております。後は、ちょっと人数的には多いようです。中学校であれば40人ギリギリ2学級というようになっていますし、小学校であれば39人で1学級というところのようです。現実には2校ございます。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

いま言われたとおり、39人、1校ですかね、教育長。確か三毛門ですよ。千束の39人があるけど、これは1年生ということで、クリアできていると思うんですけど、近隣を見れば少人数学級、非常に今取り入れているところが多いようでございます。行橋市、荻田町、みやこ町においては、35人を超えれば2クラスというふうに聞いていますが、これはご理解頂いているのでしょうか。

○議長 磯永優二君

教育長、答弁。

○教育長 戸田章君

教職員の配置につきましては、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員の定数の標準に関する法律に則って、県教育委員会が、職員の配当をして頂いております。

その他に加配教員とかいうような形ではありますけれども、基本的には、そういう県よりの定数でございます。市町村によっては、独自予算でやっているということは知っております。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

市町村で格差があるように、これも私は思いますが、やはり今いろんな意味で、昔と違って少人数学級にするという課題が、かなり設けておられるようです。きめ細かい指導で勉強の意欲がわいたり、悩みや相談も先生にじっくり聞いてもらえると。先生との親密感もとれて、2クラスにしている所が多いと思います。

それで築上町あたりも町独自で教員を採用しているのが、これを見たら、かなりありますよね。複式学級解消で2人、特別支援学級で6人、学力向上で2人、非常勤講師5人というようにやっています。何でこういうふうにするかと言ったら、やはり今の生徒の状況、それと教育格差がないように、余所の地域に負けないように、一生懸命取り組んでいると思うんです。その点、豊前市の状況を聞いたら、県からの配置ぐらいで賄っていると聞いているんですけれども、今後以降、この辺のお考えをお聞かせ下さい。

○議長 磯永優二君

教育長、答弁。

○教育長 戸田章君

豊前市においては、幸いと言ったら語弊になりますけれども、少人数、35人学級を、殆どのクラス、小学校におきますと、支援学級を含めて73学級ありますが、いま言ったように、1校、それから、中学校は24学級ありますけれども、八屋中学校の2学級ということになっております。当然、担任等をすれば、常勤講師等の運用になろうかと思えますけれども、予算が伴いますので、今後、教育委員会としても議論を深めながら、できるだけきめ細かな指導ができるような対策は、何らかの方法で取っていききたいなという思いは持っております。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

予算が伴うので、非常にやりにくい、またできないということもあるかも知れませんが、全国的にも秋田県、東北のほうは、かなり成績が毎年、学力調査で上位のほうを示しているんですけれども、早くから少人数学級に取り組んでいる、4年連続上位になっていると。それと山形県では、少人数学級に取り組むことで、不登校や欠席率が非常に下がったという例もあります。

こういう観点から、いま先生たちも昔と違って、非常に教育に負担が掛るといえるのか、やりにくい状況にきているのは、教育長もご存じだと思いますけれども、是非この近隣も行橋市、その他も35人以下でやっているのだから、予算の問題は、また市長にお尋ねしなければならないと思いますが、市長のちょっとお考えを、よろしいですか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

今ご指摘の件でございます。確かに、市で1人教職員さんをお雇いすると、かなりの財政的負担をしなければなりません。それから、やはり雇ったからには、暫く、1年契約ということが出来るかどうかを含めて、かなりの負担になると思います。そういう意味では

財政面、しかし子育てには、教育には、お金を掛けろというのが、もっともな話でありますし、子育てをし易い環境をつくる、良い教育環境をつくるというのは大事なことでございます。財政面とのバランスを考慮しながら検討させて頂ければと思います。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

是非、教育に関して、市長も所信表明でおっしゃいましたけれども、他市に負けないような努力をしてもらいたいと思います。

なぜかという、最近の学校は、不登校やいじめ問題などが深刻化しています。障害のある子どもや、特別な支援を要する子どもが、かなり増加しています。そのような中、さらに授業時間や指導内容が増加する、新学習指導要領が完全実施となっているわけです。このような学校が抱える課題に適切な対応ができるよう、また子ども達1人ひとりに質の高い教育が行われるようにするために、また近隣の市町村と教育の格差がないように、少人数学級の実現を強くお願いいたしまして、教育問題についての質問を終わります。

次は、防災対策についてであります。東日本大震災が起きて3年が過ぎようとしている、きょう、この頃、マスコミ等も風化気味であるようですが、防災に対する意識は、東北の方々が命と引き換えに、身をもって我々に教えてくれた教訓の1つだと私は考えます。

豊前市も防災対策、防災訓練など、様々な形で取り組んでいるようですが、現在どのような組織、対策などができているのか、お答え下さい。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

防災訓練の状況について、お答えいたします。防災訓練につきましては、地域防災意識の向上及び地域防災力強化を目的に、平成25年度は、9月に角田地区総合防災訓練を、翌年2月に明神地区津波避難訓練を実施いたしたところでございます。

角田地区の総合防災訓練につきましては、ご案内のように、豊前市はじまって以来の大規模な防災訓練になったところでございます。訓練には、市民の皆さんの参加により、防災意識が高まりまして、自主防災組織設立が着実に進められており、防災訓練の必要性を改めて実感しているところでございます。

また、八屋明神地区に実施しました津波避難訓練につきましては、これは福岡県津波避難計画策定事業のワークショップの最終回として、実施したものでございます。

この事業は、全4回にわたり専門のコーディネーターによる地域住民参加型のワークショップを開催し、防災の基礎知識、避難経路の確認のための参画、要援護者リストの作成などを地域で行い、自主防災組織の設立と、地域の協調体制の強化を図ることを目的とし

ております。

自主防災組織の設立には、この地域ワークショップ型が理想であると考えられておりまして、明神地区をモデル地区として捉え、豊前市全域に、この形を推進してまいりたいと、現在考えているところでございます。以上です。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

今の時点で自主防災組織が設置された所は、何件ありますか。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

自主防災組織の現状でございます。現在の組織率は、豊前市全域131地域ございますが、85地域で65%となっているところでございます。以上です。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

約65%ですね。後の未設置の地域は、いつ頃までに立ち上がる予定なんですかね。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

お答えします。昨年11月より、組織設立の推進及び活動強化を図るため、区長会に自主防災組織設立のための座談会の開催をお願いし、現在まで45地域を終了しているところでございます。今年度も引き続き、区長会に自主防災組織設立のための座談会の開催をお願いし、推進していく計画にいたしております。以上です。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

課長、座談会を45地域でやったということですが、大体ニュアンス的にいつぐらいまでに設置する予定ですか。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

お答えします。この45地域については、合河、横武、三毛門、角田でございます。今年度につきましては、現在、宇島が決まっております、あと手を挙げて頂いた所から、

順次その順番で全域に入っていこうと計画しているところでございます。

今年度中に可能な限り、あと残りの地域を含めて回りたいと考えているところであります。以上です。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

資料を頂いたのを見ますと、八屋地区を見れば、二葉、東八幡町が、まだ未設置であります。2つとも商店街であります。商店街が、やはり火事や災害が起きたときに、一番被害が大きいんじゃないかと思いますが、この2つ、他の地域も、まだあるかも分りませんが、一番メインなこの2つは、いま現状どうなっているんでしょうかね。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

そうですね。そういう時点で、これまで自主防災組織の設立については、優先順位を付けてまいっておりません。まず手挙げ方式ということで、お願いをしているところでございまして、今ご指摘があったことを踏まえれば、そういう形で、早く八屋、宇島あたりは、そういう自主防災組織の設立のための座談会を、早く開いていかなければいけないというふうに思っております。区長会等にも、その辺、相談をしまして、出来るだけ早い時期に、そういう校区ごとの会議を開いてもらって、スケジュール等を決めて頂ければと考えております。以上です。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

課長、この地域、商店街地域は、家とか店舗が密集している所であります。本当に防災対策に力を入れようと思ったら、やはりこの辺を充実して、一番に設置をしてもらいたいと思うんです。それとか避難所の確保、こういうのはどうなっているんでしょうか。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

優先順位から言えば、当然、早くなつてまいります。現在、今年度、まず計画が、もう既に区長会との協議の中で決まっております。簡単にご紹介いたしますと、今年度の計画については、梅雨前に職員を対象とした災害対策本部設置運営訓練を5月31日に、まず行ったところであります。

また、市民を対象とした総合防災訓練につきましては、今年度は合河地区で、あと三毛

門地区において、地域のワークショップと、総合防災訓練を組み合わせた訓練を計画いたしております。またJアラートや、緊急エリアメール等の通信訓練もあわせた自主参加等も踏まえて、あらゆる機会を通じて、市民の防災意識の向上に努めているところでございまして、八屋については、今ご指摘がありましたので、早急に区長会ともご相談して、そういう所については、その合間に入れていきたいと考えております。以上です。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

この商店街のことを申し上げる理由の1つといたしまして、皆様もご存じだと思いますけれども、今年に入ってから、全国で商店街の大きな火災が今時点で、すでに大きな火災だけで4件起きています。今年の4月28日、大阪府豊中市庄内駅前、5月8日、淀川区商店街、5月31日、同じく豊中市曾根駅前、そして2月5日、北九州市小倉魚町商店街、これが起きて、かなり各自治体も商店街に対する防火対策、防火意識が盛んになっております。この辺を踏まえて、やはり商店街に対する防災意識を高めてもらいたいと思いますが、その辺一言お願いします。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

ご指摘ございました商店街関係者、並びに地域住民等が、災害時における商店街の役割等について認識を共有いたしまして、商店街と地域住民による防災力アップという視点で、是非、地域と話し合いに入って支援していきたいと考えております。以上です。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

是非この商店街は、また新たな考えでやってもらいたいと思います。次に、この度、議員提案で廃屋対策の提案をしていますが、前回、私が質問した二葉商店街の三叉路の間の店舗が古くなって危険な状況なので、対処してほしいと聞きましたが、その後、どのようになっているのか、ご説明をお願いします。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

ご指摘の店舗につきましては、市のほうで調査を行いまして、ご指摘の店舗、それから隣接する店舗が同じ所有者でございまして、片一方の店舗のほうは現在、使用しております。いま使われてないほうの店舗につきましては、場所がちょうど目抜き通りでもござい

ますので、いま商店街のほうで毎月一度、市の職員も交えて会議をやっております。

その中でよい活用ができないかというふうに、今投げかけをしているところであります。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

話し合いを月に一度しているということではありますが、私がこの質問を行うために、ちょっと視察に行ってみりました。私が見た限り、前よりもバリケードの状況が悪くなっていると思うんですが、カラコものけていますね。そして安全ロープの張り方、店に引っ付いてしまって、だらっと垂れている状況ですね。あれじゃバリケードの役をしないと思うんですよ。そして課長、私が以前質問したときに、これは議事録をとっていますけども、検討したい、あそこも候補地の1つなので、検討する余地が、用地として挙げて頂きますとか、市長も答弁で言っています。これは、進捗状況を説明するに当たるんじゃないですかね。進捗状況の一覧表が来ますけども、私の欄は1つもありませんでした。

そして、聞かなければ答えないということは、非常に私はちょっと憤慨しております。ここは、豊前市にとっても、商店街の一番目立つ所と思います。飲食店、商店街、通学路、通勤、いろんな人が使うわけですね。そこをそういうふうに前よりもバリケードが悪化しているということなので、その辺は、課長、どういう基準でやっているんですか。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

進捗状況につきましては、まだご報告できる段階ではないと思ひまして、まだ報告しておりませんでした。決して忘れていたわけではございません。やはり個人の財産でありますので、その辺の取り扱いにつきましては、慎重に、ご本人がいないところで、勝手に話をどんどん進めていくわけにはいきませんので、その辺は慎重に進めていきたいと考えております。以上です。

○議長 磯永優二

福井議員。

○5番 福井昌文君

その所有者と、いま言われましたが協議をして、もし動かせないなら、もう市が買い取るくらいのことを言って、そして、崩して更地にして、何か憩いの場とか、あそこは商店街の三叉路ですから、いろんな活用の仕方があると思うんですよ。そういうふうな考え、状況、それを3ヵ月間ですね。3月から6月、その段階、段階で、今どういうふうになっているという進捗状況、それはもらいたいと思うんですが、お考えを聞かせて下さい。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

中間報告がなくて、誠に申し訳ございませんでした。今後は、その都度、進捗状況を所有者等を配慮しながら、ご報告していきたいと考えております。

また、商店街等とも、良いアイデアがないか、ということで振っておりますので、またそういう話が出ましたところで、ご報告させていただきます。以上です。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

課長、まだ報告する段階でないと、さっきおっしゃいましたけども、どういうところまで話し合い、また進行しているんですか、お聞かせ下さい。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

なかなか限られた狭いスペースですので、建物等の老朽化もございます。やはり全体的なコミュニティースペースとしてどうか、ということになってくるんじゃないかと思うんですが、そういう話を、いま商店街の方と話したところでございます。

ただ、まだこれが良い、こうしようとか、市が買い取ってくれとか、まだその辺の段階までいっていませんので、そういう状況でございます。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

課長、それは何をするとか、それは後の話と思うんですよ。いま危険家屋の状況で、バリケードを張ってあるんですから、それをどう処理するかを前提にして、持ち主さんと協議するとか、それは何をするとかは、いつでもできるじゃないですか、その後でも。

その辺の危険家屋として、まだ空き家、空き店舗になっていますね。正面のガラスが割れて、あまり見かけもよろしくない。そういうふうなところから入ってもらいたいと思うんですけど、その辺のお考えを、お聞かせ下さい。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、地権者か、そして地域の誰と、どういう団体とお話をしよるか、それを3ヵ月経っているのに、この場で答弁せな、質問者はなかなか、この話は前向きに出らんやろ。それをしてないならしてないと、はっきり言うこと。しているなら、そこら辺ごろをこの場で質問者に答弁をしてあげて下さい。

まちづくり課長。

○まちづくり課長 大谷隆司君

まず、地権者ですが、所有者とは、直接はお話をしておりません。ただ、ご兄弟の方が市内におりましたので、今の状況を知っている方だったので、お聞きをして、大体状況が分かったようなところでございます。

それと商店街が毎月一水会という商店街連合会の会合がございまして、その場で提議しております。ただ先程言ったような状況でございます。以上です。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

課長、話を本当に進めようと思ったら、もう地権者の身内やら、地権者に直接会って進めないと、話は進まないと思うんですよ。一刻も早い処置が私は必要と思うんです。

そうしないと、やはりあそこはいま言ったように、人通りの多い所でもあるし、車も通ります。もしも何かあったら、これは、また市の責任もあるし、大問題になる可能性もありますので、是非、早急に対応して下さい。よろしくお願いします。

○議長 磯永優二君

答弁はいいですか。

○5番 福井昌文君

では、答弁を一言。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

危険家屋につきましては、環境課とよく相談して、地権者に対応したいと考えております。以上です。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

市長、お考えを、お聞かせ下さい。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

街の商店街中心部分にある老朽危険家屋でございます。前回のご質問のときに地権者、土地の民間のものでございますので、土地の所有者、建物の所有者、地権者と協議をし、地元と協議をし、研究していきたいという答弁をさせて頂いたと思います。

やはり質問を頂いており、3ヵ月以上経って、まだ地権者にお会いできていないという

のは、やはり不手際の中に入るだろうと思います。出来る限り早く、地権者と直接交渉できるように頑張っていきたいと思います。早く中心街に相応しい環境整備、景観の取り戻しをしていかなければと思います。以上でございます。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

是非、市長も最後に述べてくれていました。早速、調査させていただきますというふうに述べていましたので、その調査のほうを先に迅速にやってもらいたいと思います。

防災対策についてですが、次に、去る5月31日、職員の防災訓練があったようであります。北部九州豪雨を想定しての訓練と聞いていますが、具体的にどのような訓練をされたのか、教えて頂けますか。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

当日の訓練の内容について、ご説明させていただきます。

今回の災害対策本部設置運営訓練では、県の支援を頂きながら、風水害による災害が発生したことを想定し、災害対策本部の設置を模擬的に体験しながら、住民からの依頼や問い合わせに対する対応、救助要請に対する対応、気象条件や河川水位の状況からの避難勧告等の発令、他機関への応援要請等について、情報を共有し、迅速かつ適切に処理し、訓練を通じて、平時より災害対応能力を身に付けることを目的として実施したものであります。参加職員は、市長、副市長、教育長をはじめ県・市職員78名でございました。以上です。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

もうちょっと具体的に、どういうふうな流れで動き、組織作りをされたのか、ちょっとご説明下さい。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

お答えします。当日は、私ども、もう既に防災対策のマニュアルがあります。対策本部の設置要綱がございまして、それに沿って、今回、防災対策本部を設置したわけでございます。対策の構成の組織図でございますが、本部長が市長、副本部長が副市長、本部員が教育長、各課長、消防団という流れでございます。

その中に、対策班として、総務班、救助班、防疫衛生班、経済対策班、調査協力班、緊

急時特別出動班、消防本部12分団という、こういう既に防災対応計画の中に、そういうマニュアルがございまして、このマニュアルどおりに実行できるかという形で、今回、設置運営訓練を行ったところでございます。以上です。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

そのマニュアルどおり本部をつくって、連絡を取り合っただけですかね。外に出てどうかじゃなくて。ちょっとその動きの説明を。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

当日は、その多目的センターの2階の会館の一室を借りて、その中に対策本部、それぞれの班はテーブルごとにつくりまして、その中に中央に対策本部をつくりまして、その中で、疑似的に命令については、従来なら電話等で状況を聞いてするんですが、全てペーパーで命令系統は指示を出しまして、そのペーパーを持って、それぞれの班、また外部への連絡を行ったという模擬的な練習でございます。

その対応が適切にできたかできないかについては、後日、県のほうのコンサルが入っておりますので、そのコンサルの結果を受けて、反省すべきところは反省して、対応できていないところは、新たに今まで気づかないところを含めて、次回につなげていこうという訓練でございます。

これまで豊前市は、最近、対策本部まで設置するということに見舞われていないので、多くの職員が経験してないと、私も含めてですね。そういう状況にございますので、今回、そういうことで梅雨前にあって、まずやってみようということをやったところでございます。当日は、もう体育館の一室で、そのペーパーを持ってということで訓練をするという、そういう内容でございました。以上です。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

聞るところによりますと、非常に充実した訓練じゃなかったかなと思います。また検証結果、コンサルト会社から来るということなんですけど、検証を多いにしてもらって、災害の状況は、コンサルト会社の言うとおりにならないかもわかりません。

豊前市の状況は状況があるので、過去の状況とかを踏まえて、どこの川が氾濫したとかいうのは、もうご存知だと思いますけども、そういうふうな流れをもって訓練して頂ければと思っております。

そして、また、非常に良いと思うんですが、私も知らなかったんですが、これは議会のほうには連絡はされていたんですかね。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

お答えします。今回のこの訓練につきましては、災害対策本部設置訓練ということで、マニュアルどおりに動けるかどうか、という訓練で、職員研修との位置づけで実施したものでありましたが、昨今の安全・安心に対する市民皆さんの関心の高さを踏まえれば、私の認識の甘さもあり議会のほうには、ご連絡をしてなかったということでございます。

配慮が足りず、議員の皆様には、大変ご迷惑をお掛けしましたことを反省し、お詫び申し上げます。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

では議長のほうにも、何も連絡がなかったわけですかね。議会事務局のほうは参加されたんですかね。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

職員ということで参加をお願いしておりました。以上です。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

私の聞いたところというか、確か私の記憶では、事務局を参加させるときは、確か議長の承認が要るんじゃないですかね。

○議長 磯永優二君

今までは、そうでしたけど、今度一切ありませんでした。どうでしょうか。

ここで暫時休憩しましょうか。

○5番 福井昌文君

お願いします。

○議長 磯永優二君

この件について、暫時休憩します。

休憩 15時00分

再開 15時29分

○議長 磯永優二君

休憩前に引き続き、同志会、福井昌文議員の一般質問を続行いたします。
福井議員。

○5番 福井昌文君

休憩前に引き続き、述べたいと思います。議会は二元代表制なので、前回申し上げたような報告は、是非お願いしたいと思います。

○議長 磯永優二君

副市長、答弁。

○副市長 後小路一雄君

今回、不手際がございまして、議会にお知らせをせず、議長はじめ議員の皆様に変な失礼なことをしたことに對しまして、深くお詫びを申し上げます。今後このようなことが二度とないよう、十分配慮して対処してまいります。申し訳ございませんでした。

○議長 磯永優二君

福井議員。

○5番 福井昌文君

いろいろ言ってまいりましたけれども、防災対策は、防災訓練を含め防災時に速やかな行動、対応をするために大切な取り組みだと思っておりますので、今後も市民の生命、財産を守るためにも充実した対策をお願いし、私の質問を終わります。

○議長 磯永優二君

ここで、同志会の一般質問の途中でございますが、本日の会議時間は、議事日程の都合により、予め延長することにいたします。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって、本日の会議は時間延長といたします。

次に、爪丸裕和議員。

○11番 爪丸裕和君

引き続き、同志会2番手ですね。爪丸裕和、質問を続けさせていただきます。
まず、人口減少に伴う自治体の取り組みについて、ということですが、あくまで、これは人口増対策を否定するものではありません。先程、午前中、黒江議員のほうから人口増対策というような質問もありましたが、当然これは我が国にとりましても、やはり最重要課題というような位置づけであります。政府におきましては、昨日の朝日新聞だったか、50年後に、この今の1億人を維持するというような、これは6月にも閣議において決定させていくと。現在の出生率が1.43ですかね、福祉課長。これを目標を掲げて、確か2.07まで引き上げるという。中身につきましても、やはり3子以降と、3子以降の子育てを、しっかりと支援していくというようなことを掲げております。

しかしながら人口が、その政策目標を達成することができずに、また人口が減少に転じたとき、人口問題研究所ですかね。これが2050年を推計したんだっただか、現在の人口から、およそ3000万人減るであろうと。9000万人ということになりますかね。1億人を当然割り込んでくると。

そのような状況の中におきまして、やはり首都圏とか、福岡市あたりの都市部への人口が、どんどん地方からみれば流出ですが、流入してくるといような、極端に言えば地方は、ますます人口が減少、さらには若い世代が流出することにより、高齢化の時代と。

そして当然のごとく、生産年齢人口ですね。働く世代の方々の人口が減ることに伴い、やはり税収ですね、本市にとりましても、やはり税収減と、このような局面を迎えたときに、さて、この豊前市は、その局面を見据えて、どのように、今から政策というのを掲げて取り組んでいこうとしているのか。

まず市長、これは職員の意識というのが重要であると考えております。そこで、まず職員1人ひとりが、この問題について、どのように考えているのか、まず、ご答弁を頂きたいと思います。

○議長 磯永優二君

財務課長、答弁。

○財務課長 諫山喜幸君

それでは、ご答弁させていただきます。人口減少時代の対応が全国的に課題となる中、職員の考え方につきましては、所属長連絡調整会議、それから、また予算編成説明会等において、まず歳入面では、税収は景気動向、そして地方交付税は制度改正に左右され、予測は困難であるということ、まず説明をいたしております。

また歳出面では、今後も少子高齢化による社会保障の増加傾向は、引き続き見込まれるということで、経費節減の取り組みの重要性を再度確認し合って、コスト増についても単純に歳出増として取り扱うことのないように、十分精査するように、ということで指示を出したところでございます。

○議長 磯永優二君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

課長、所属長は、その辺はしっかり行きわたっていると思うんですよ。それから下の職員まで、そのような意識というものが高まっているのか。今までのように交付税が来るんだ、交付税措置で昔の言い方で言えば、地方公共団体が破綻するはずがないんだというような、そのような甘い考えを持たれて、この市役所に入って来られるような新人の職員さんがおられても、これは非常に困るわけですねよ。その辺をしっかりと見据えて上で、これは職員教育というのをやっていかないといけないと思うんですよ。

ということを踏まえて、ちょっと順次、何点かについて、まず財務課長、お尋ねいたしますが、まず、これは債務、一般、普通会計のここで、ちょっとお尋ねしますが、債務残高、これは資料を頂いております。平成20年から24年までの過去5年だけけれども、比較で見ましたら4年比較となりますが、ここで7億3561万1000円ですかね、というような、これは債務の起債を償還している傾向にあります。

これは財務課長、今後、債務の返済計画をどのように位置付けているのか、まずその辺について、お聞かせ下さい。

○議長 磯永優二君

財務課長、答弁。

○財務課長 諫山喜幸君

債務と起債残高、起債の返還につきましては、新しく起債の借入額を元金償還額以下に抑制すると。要は返す以上に借りないということで、そういうことで、また繰上償還、毎年度、当初予算で1億円程度の繰上償還を計画しておりますが、そういうことも計画的に行って、1円でも少なく起債残高を減少させるように努めていきたいと思っております。

○議長 磯永優二君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

当然のことでしょう。それと繰上償還というのは、やはり私はしっかりやるべきだという、昔のまだ高い金利のものもあるんじゃないか、と位置付けておりますが、今の答弁では、まだ計画性がまだないわけですよ。しっかり、そここのところを新たな起債よりは、償還のほうを増やすというのは、これは当然ですよ。そして、その年度の計画性を持ちながら、それと財政調整基金ですね、これを切り崩されたんじゃないんだから、財政調整基金も切り崩さずに、しっかりと、5年なら5年の目標数値というものを掲げて取り組んでいくべきと思いますが、如何でしょうかね。

○議長 磯永優二君

財務課長、答弁。

○財務課長 諫山喜幸君

そうですね、基金は、後年度の財源としても、有効に使わせて頂きたいと思っておりますので、使う時には使わせて頂きますが、なるべく基金は使わずに、その年度で歳入・歳出の均衡がとれるように努力してまいりたいと思っております。

○議長 磯永優二君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

課長、先程申しましたように、やはり全てにおいて、まず計画ですね。まず目標数値、

これは計画を立てなければ実行できないんだから、しっかりとした、その強い意思を持って、しっかりそのところを、やはり目標数値というものを掲げて頂き、これは110億円なんて数字は、まだ高い金額は、まだ高い。やはり100億円は切るべきじゃないかなというのが私の見方です。

先程も言いましたように、やはり人口の減少に伴い、歳入が当然、減ってくるという想定のもとで、そのような時代というものを想定しながら、しっかりとした、やはり、まず債務の返済ということを、しっかりと計画に掲げて頂きたいと思います。だから、これはもう課長ね、申しておきますが、答弁は結構です。

後は、これは今後の財務課長、今から10年後、20年後を、これは当然、見据えて、やはりどのような豊前市としてのシミュレーションなりが立てられているのか、その辺について、如何でしょうか。

○議長 磯永優二君

財務課長、答弁。

○財務課長 諫山喜幸君

いま10年後、20年後ということで、ご質問頂いたところですが、先程申しましたように、歳入については、景気の動向、それから交付税については、制度改正で左右されて、困難な状況ではありますが、長期的な展望に立って、健全な財政運営を行うために、各課より5年の事業計画を提出させております。その中で、歳出の精査を行って、次年度の予算編成に活用しているところでございます。

○議長 磯永優二君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

では、その歳入の分は、ちょっと歳入減になったところを見据えた上で、やはりこれは歳出面のことを質問させて頂きますが、一般会計にかかわる部分で、やはりあらゆる事業を、しっかり財務課長になってくるかどうか、これは教育委員会も今から出ますが、各事業課の課長にも関連しますが、やはり、しっかり事業というものを検証して、見直すべきところはしっかり見直していくということが、やはり重要だと思うわけなんですよ。

まず、これは人口減少に伴えば、先程からも出ておりましたが、やはり、これは当然、少子化に伴って人口減少ということが想定されるわけですよ。そうなったときには、やはり今の現行の小学校なり中学校、この辺の統廃合というのも、将来避けられない課題ではないかと位置付けておりますが、その辺については、学校教育課長ですかね、どのように認識され、どのように考えられているのか、お答え頂けますか。

○議長 磯永優二君

学校教育課長、答弁。

○学校教育課長 武道和宏君

お答えいたします。前回の中学校の適正規模に対する答申が、平成17年に出されております。ですから、それ以降、8年と半年が経過しておりますが、その間には、教育を取り巻く課題というのは、かなり大きく変わってきておりますし、また合岩中学校を小規模特認校にするといったこともありますので、今年度中に改めて通学区域審議会を立ち上げて、中学校の適正規模について審議をして頂く予定にしております。

○議長 磯永優二君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

これは通学区域審議会が、これは17年だったですかね、中学校の統廃合で、1校というような答申だったと思うが、その後いろいろ今の後藤市長じゃなしに、前市長でしたね、釜井市長のときに、やはり財政面の問題を一番に掲げられました。

しかしながら、あの頃、平成29年度までの出生の状況から、児童・生徒の大体の数を把握することができたんですよ。だから教育課長、今の時点でゼロ歳児が、当然、今から6年後に小学校入学か、そうすれば6年後の小学校の今の市内の児童数、そして12年後は中学校に入学するわけじゃないかと思えます。その辺をしっかりと把握しているのかどうか、把握していたら、ちょっと数を教えて下さい。

○議長 磯永優二君

学校教育課長、答弁。

○学校教育課長 武道和宏君

今の段階では、まだゼロ歳児から1歳刻みごとの数は把握はしておりませんが、7月以降、その審議会を立ち上げた段階で、そういった資料も提示をしながら議論をして頂くとは思っております。ただ、数だけで学校の規模を判断するというのは、決して良いことではないと思えますから、様々な観点から議論はして頂くと思っております。

○議長 磯永優二君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

課長、私は今のゼロ歳児から見たときの将来の児童、そして、中学校の生徒数を教えて下さいと質問しただけであります。これは反問権もあるんですが、それから先は、ちょっとあなたの行き過ぎた答弁になります。私は数のみを見て、いま学校の適正規模のことを言いましたが、ちょっとあなたフライングですよ。ちょっと気を付けて下さい。

反問権は良いんだけど、今のは、ちょっと行き過ぎです。

これはちょっと戻りますが、課長、ちょっと調べて下さい。これは分かるでしょうから、しっかりちょっと調べて、そして、いま答弁されました、これは7月に通学審議会を立ち

上げるわけですね。その委員会の構成は、どのように考えているんですか。

○議長 磯永優二君

学校教育課長、答弁。

○学校教育課長 武道和宏君

お答えいたします。通学区域審議会規則がありますので、それに基づいて委員を選任する予定であります。

○議長 磯永優二君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

分かりました。これは、また7月以降、そのような立ち上げの後の審議会の経緯等を見守りながら、またこの点については必要に応じて質問させていただきます。

そしたら、次になりますが、現在、これは事業課の指定管理者について、お尋ねいたしますが、いろいろの指定管理があると思いますが、やはり収益事業に取り組むような団体と言いましたら、やはりト仙、それから天狗の湯、それと冷泉ですかね。この辺についてのしっかりとした当然、収支の決算状況も把握しているでしょうし、経営状況等をしっかり把握されているのか。そして、もし経営状況が厳しいのであれば、こういったところを行政として指導されようとしているのか、この点を、まずお聞かせ下さい。

○副議長 山崎廣美君

農林水産課長、答弁。

○農林水産課長 中川裕次君

ト仙の郷につきましては、毎月1回理事会が行われておりまして、そこに職員を派遣して、1ヵ月ごとの経理の状況等を把握させて頂いております。また年1回の総会時には、出席をして報告を伺っているところでございます。現在、地元運営で切り詰められるところは切り詰めて、一生懸命やっているわけですが、どうしても建築後15年を経過しまして、いろいろ修繕箇所も増えております。ト仙でできる部分はト仙ですべて頂きながら、やはり市として応援できるところは、しっかり応援させて頂いて、経営が安定するように、入込客の増加に努めているところでございます。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

経営状況を把握しているのか、もし経営が悪化であるのならば、行政として、その辺も指導しているのかを聞いているのです。

○副議長 山崎廣美君

農林水産課長、答弁。

○農林水産課長 中川裕次君

昨年度の決算につきましては、微弱であります但黒字決算であります。

○副議長 山崎廣美君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

天狗の湯につきましては、昨年、値上げをさせて頂きまして、重油等の高騰で厳しい状況ではございますが、昨年までは黒字でやっております。

また天狗の湯に関しましては、お客様が安定した方が見えていますので、このまま継続できるように、市のほうも協力をしているところでございます。

また畑冷泉につきましては、24年、23年と赤字になりましたので、25年度、少しテコ入れをいたしまして、宣伝等を強化したところ、25年度は若干の黒字となっておりますが、畑冷泉につきましては、地元の協議団体が、このまま運営するのは厳しいということで、次期指定管理の問題がございます。新しい事業者を公募しなくてはならないというような課題がございます。以上です。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

2つは黒字と、そして畑冷泉については赤字ということですが、これはもう原則、課長、申し上げておきますが、黒字経営が絶対条件ですね。これは赤字が続くようであれば、はっきり言いますが、閉鎖させるべきであると、見直すべき事業の1つに入れられているということ、だから指定管理を受けている側に、しっかり、そこは厳しく伝えて頂きたいということと、黒字が続いているからよろしいじゃなしに、やはり改善すべきところは行政の目から見て、やはり利用者の視点に立って、しっかり改善すべきところは、こうしなさい、工夫しなさいということ促してやるべき、指導すべきと考えておりますので、その辺をしっかり指導してやって下さい。

あと図書館、ちょっとお伺いしますが、図書館、今2期になつとるんですかね。

これは状況を聞きますが、これは生涯学習になりますか。貸し出しの状況、入館者数、それから移動の車、ブックン等についての状況はどうなんですかね。要は利用状況です。

ちょっとお聞かせ下さい。

○副議長 山崎廣美君

生涯学習課長、答弁。

○生涯学習課長 佐野京一君

議員ご質問の貸し出しの状況につきましては、現在のところ、年々増えている状況でございます。またブックン等につきましても、年々、3年間でございますが、増えている状

況でございます。

それと同時に、先程申されています指定管理者の決算状況につきましては、若干ではありますが、平成25年度については黒字決算というふうになっております。以上です。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

実際に課長、これは入館者数、そして貸出、ずっと近年、増えているということでしょうでしょうかね。そのところが、ちょっと聞かされていないんじゃないかな。

ブックンのことは聞きました。それと課長、書籍は市のほうが購入して、確か、そのまま納入しているんじゃないかと思うんですよ。その選定については、どうですか、利用者のニーズにというようなことでありますが、実際に約600万円と思うんですが、書籍をそれだけ購入して、その書籍というのが、どれだけ利用されているかどうか、そういった点については、しっかりチェックされていますかね。ボダイさんのほうは。

○副議長 山崎廣美君

生涯学習課著、答弁。

○生涯学習課長 佐野京一君

先程言われていました書籍につきましては、各利用者のリクエストに応じて、そのリクエストを購入している部分と、あと各本のジャンルに分けて、その中でも貸し出し数の多いジャンルのものを、指定管理者のほうで選定して、購入しているという状況になっております。ブックンとか、本館の利用につきましては、平成23年度につきましては、本館については、10万5804冊、24年度につきましては、12万2171冊で、1万6367冊ほど増えております。ブックンにつきましても、1万5330冊につきまして、1万6152冊と、822冊ほど増えている状況となっております。以上です。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

入館者、そして貸し出し数、これは分かりました。それとブックン評価も分かりましたが、書籍購入のことを言われましたが、実際のこれは評価をされていないわけですよ。

購入して、実際にそれが利用されているかどうか、ということをチェックすることも重要と思うんですよ。これは実際は、受けている課長、そのボダイさんのほうからの要望があってきているわけでしょう。そうじゃないんですかね。お宅が、生涯学習のほうが直接に調査して、書籍を選定しているわけじゃないんじゃないかな。だからそこですよ。

だから実際に、本当に利用者のニーズに合っているのかどうかということは、そこはしっかりチェックすべきだと思いますので、そのところは、しっかり相手に申しておって

下さい。これは答弁をもらいましょう。

○副議長 山崎廣美君

生涯学習課長、答弁。

○生涯学習課長 佐野京一君

1年間の貸し出しジャンル数というものの比率を出しております、その負担割合に応じて書籍の構成比なりの購入をされていると聞いております。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

ちょっと理解できていないな。それは分かっていると言うんですよ。それは分かっているんだけど、実際、購入して納めるでしょ、お宅のほうで600万円程度。納めたときに、その本が本当に利用されているかどうかぐらいは、しっかりチェックすべきじゃないかと言っているんですよ。本当に、その利用者のニーズに合っているかどうかということを、しっかりお宅のほうも点検して下さいと。意味、分かりますね、これ。分からなかったら学校教育課長、後で教えておいて下さい。いいですね。

時間がないから次にいきます。

これはまちづくり課長、ちょっと戻ります。これは補助金がいろいろ掛る事業と、お宅が一番抱えているんですがね。前にもこれは言いましたが、やはりTMOの関係とかイベント関係ですがね。こういったものについても、しっかり検証すべきと思うんですが、いかがですか。

○副議長 山崎廣美君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

ご指摘のとおり、いろいろな補助金を出しておりますが、特にTMO事業につきましては、よく検証し、また新規の事業を立ち上げるように、いま協議をしているところでございます。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

実際に、商店街の意見に沿うような予算の措置ならよろしいんです。何というか、びっくり夏祭りですか、それが一番メインの事業じゃないかと思いますが、しっかり課長、商店街の意見を聴きながら、必要な事業であるならば、しっかりやって頂き、そして全てにおいては、それは費用対効果と言いますか、我々は投資効果と言いますが、そのところをしっかりと検証していくということ。

そして、やはり、これは全体的に申しますが、財政事情が厳しくなったときに、市長、言うまでもありませんが、教育、福祉、これは絶対に落とすことができない事業なんです。そうなったときに、やはりイベント関係とか補助金、先程の指定管理者の問題とか、こういったところは、常にやはりしっかりとチェックしておくべきだと思います。

そして、その財政難になったときに、どこを切るかという、これは行政が迫られるんですよ、この覚悟を。そのときに、その覚悟というのが必要なんです。その辺をしっかりと踏まえておいて、やはり今の補助金の受入れの団体なり指定管理者の団体と、しっかりとその辺は厳しく話を進めて、今後また運営をして頂きたいと思います。

そして、当然これは事業の仕分けとなってきますから、そのときに、この事業をどういうふうに分けていくかということは、これは企画調整会議になってくるんでしょうけれども、その辺で、これはしっかりと話し合いをされとって下さい。ちょっと、これは時間の関係もありますから、次のほうにいきたいと思います。

これは最後にちょっと、両方含めて意見を述べさせていただきますが、地方財政健全化法ですかね。これは平成20年4月1日に施行されたわけでありまして、ご承知のように、この法律が制定された、その経緯につきましては、やはり夕張市の財政の破綻ということにあるわけでありまして。当時、一般会計のみを重視をし過ぎたために、これは特会、企業会計、一部事務組合、第3セクター、一部事務組合を含めて、一部事務組合は、借金は当然ないでしょうが、その隠れ借金というのが、これがやはり見えなかったというようなところで、あれだけの莫大な債務を抱えて、とうとう経営が破たんしたというようなことで、それをもとに財政健全化法が制定、そして施行されたわけでありまして。

そして、毎年9月議会に、議会に当然、数値の報告が義務付けられていますね。だから我々としても、4指標のみを見て、これは経営が大丈夫だと、早期健全の数値には至っていないというような判断、また財政再生の将来負担比率にしても、財政再生の数値に至っていないというふうに判断してまいりましたが、しかし、この法律が制定され施行された経緯には、やはりこのような隠れ借金と言われるものを、議会としても、この辺についてもしっかりとチェックしていくべきではないかという、この視点に立って、今回この質問をさせていただきます。

これは、もう当然、いま言いましたように、公社ですね。そして第3セクター、そして企業会計、特別会計、先程言いましたが、やはり一部事務組合等の事業について、これはしっかりと見直すべきところは見直していくべきだと考えております。

まず1点目に入りますが、この開発公社ですね。今現在の抱えている保有面積、それと現在の債務について、まず、ご答弁をお願いします。

○副議長 山崎廣美君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

現在、土地開発公社で抱えております土地は、25年度は、まだ認定を頂いておりませんので、24年度ベースでお答えさせていただきますが、公有土地につきまして、面積が770.01㎡、それから代替用地につきまして1件、これが310.12㎡、それから開発中の土地、これが1件で、面積として8953㎡となっています。

債務につきましては、毎年、短期の借入れをしております、土地開発基金から短期の借入れをしております、24年度につきましては、4800万円でございます。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

ちょっと3つ分けて答弁を頂きましたが、実際、率直に聞きますが、これは塩漬けの状態になっている土地は、どれとどれですか。恐らく売却が殆ど不可能に近いような土地は。

○副議長 山崎廣美君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

現在、長期保有しておりますのが、公有地で1件、それから代替用地で1件ございます。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

ちょっと私は理解に苦しむんだけど、代替用地というのは、それは塩漬けにならないんじゃないの、違うんですかね。

○副議長 山崎廣美君

総合政策課長。

○総合政策課長 栗焼憲児君

いわゆる塩漬けの土地につきましては、いま長期保有をしているという・・・

○11番 爪丸裕和君

売却が殆ど不可能だろうという土地が・・・

○総合政策課長 栗焼憲児君

そうですね。今のところは、それが公有用地で1件、それから代替用地で1件であります。公有用地が618.12㎡、それから代替用地が310.12㎡でございます。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

なかなか、これは、他の自治体も見て、これは先行取得したものの塩漬けになるという

ことで、財政悪化の要因になるというケースもあるんですが、幸いに本市が抱えているのは、そこまで大きな面積と、恐らく額も小さくはないけどと思いますが、この公社につきましては、やはり市長、速やかに解散すべきだというのが私の認識であります。当然、市執行部としても、その方向で話を進めていると思うんですが、大体、廃止の時期というのは、いつごろ予定されているのか、ちょっとそこをお尋ねいたします。

○副議長 山崎廣美君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

おっしゃるとおり、周辺自治体でも解散の方向というところが増えております。従いまして、豊前市の土地開発公社につきましても、周辺自治体の動向等を見ながら、早い時期に解散に向けて検討に入るということで、いま具体的な解散の時期については、まだ決定をしておりません。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

具体的な時期を、もう出すべきじゃないかと思うんですよね。いつ頃になったら、これは返事を頂けますか。これはもう一度お尋ねしますが、この後、質問いたしますが、例えば一部事務組合とか、そういったものじゃないでしょ、この組織自体は。この中の1つの公社としての扱いだから、豊前市がやろうと思ったら、いつでもできるんじゃないかと思うんです。私の認識が違っておたら言っておさういけど、そうであるのであれば、構成団体がある組織じゃないので、しっかりとした時期等について答弁ができると思うんですよ。

○副議長 山崎廣美君

副市長、答弁。

○副市長 後小路一雄君

解散時期につきましては、今現在、補助事業を、この開発公社は使っております。流れとしましては、解散の方向で考えておりますが、一応、土地開発公社の任務と言いますか、そういうものは、もう殆ど終わったと思っております。そういうことで、近い将来、解散の方向にということの考えでございます。よろしく申し上げます。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

副市長がそうおっしゃるのであれば、本当に近い将来、やはり廃止の方向に持って行って頂きたいと思います。

続きまして、第3セクターということになってまいります。恐らく、この前、臨時会を

開きましたが、その前に、本市として出資をしている団体が豊前まちづくり会社と、いま道の駅の運営をやって頂いて、そして経営状況もよろしく、昨年でしたか、財務課長、900万円でしたか、株主の配当金を頂いたと。これはありがたい方向にあるんですが、ちょっと市長、これは不安要素を抱えているのが、やはり東九州自動車道の開通ですね。それに伴ったときに、やはりどうしても、通行量というのが下がってまいります。

そうなったときに、経営に与える打撃というのは、大きいんじゃないかと。その点について、当然これは、豊前市は筆頭株主でよろしいんですか。筆頭株主として、その辺をどのように第3セクターのほうに、そのような意思を伝えて、改善策として、もし今の客数が減ったときに、今から、どこに仕掛けていこうと考えているのかとか、その辺について。

それと、いろいろこれは経営が悪化した場合は、退却ですね、市長。やはり経営というのは、倒産を見据えて引き下がるというのも、これは決断の1つと思うんですよ。

その辺について、どのようにお考えなのか、市長のほうがよろしいでしょう。

○副議長 山崎廣美君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

本市が筆頭株主になっております、ぶぜん街づくり会社が運営します道の駅、おこしかけにつきましては、近い将来、28年春になりますか、東九州自動車道の開通という大きな環境変化があります。それにあわせて、既に、我々と街づくり会社のほうも、どうやったらピーターを減らすことなく維持できるのか、点としてのおこしかけという面から、豊前市内にあります、また広域にあります観光拠点なり、魅力づくりで浮かび上がってきておりますポイントを、点を結びまして線、面にかえまして、観光客と言いますか、通りすがり客の一定期間の滞在という方向に、いま舵を切っているところだと聞いております。

さらに、来年になりますが、オープンします海の水産加工施設など、こういうものと連動した形で情報発信をしていく。これも大事なことだと思います。

ただ物産も良いものを、やはり常に新鮮なものを情報提供していく、開発していくという、これも必要でございます。そういう多角面にわたりまして、あらゆる角度から、いわゆる東九州自動車道の開通に併せて、迎えるうつ態勢をとっているところでございます。

ただ通過客が増えるだけではなくて、逆に私たちは、東九州自動車道で特にいま利用客が、まだまだ未知数であります、福岡都市圏の250万人、この250万人の方々にとりましては、この東九州側、豊前地域というのは、まだまだ未踏の地と思われま。

そういう意味で、福岡都市圏の方々に、この地域の魅力を発信する。こういうことも併せて頑張っていこうということで、いま方向転換、舵取りをしているところでございます。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

分かりました。この豊前市の魅力を発信するということと、それと市長、これは実際の駅長さん、頑張っていますよね。そこは評価します。北九州のモールさんまで、これは実際出していますよね。そこでですね、市長、今までは客を待つというようなこともよろしいんだけど、そうじゃなくて、今からはもう仕掛けの時代。もうネット販売の時代だと思うんですよね。そのようなインターネットを通じて、これは大谷課長、しっかりそのところを、あなたが窓口になるでしょうから、今からそのようなことも、当然、私が言う前に運営されている、駅長さんなりスタッフの方々が考えていると思いますが、その辺についても、しっかり売上げの向上と、経営の健全化に努めて頂きたいことと、いよいよ市長、財政が悪化したときは退却ということも胸の中に置いて頂ければと思います。そうならないように、まちづくり課長、しっかりそのところを伝えて頂きたいと思います。

そして次は、これは企業会計と特会のほうに入りますが、主に悩まされているのが上下水道ですね。ここについて上下水道課長、これは債務の返済の計画があるのか、どのように債務返済を、ここも資料請求していますから、ここに来ていますね。

いいですか、ちょっとポイントを言いますよ。上水そして下水の、これはずっと債務が減ってきております。債務残高表を貰っておりますが、この点と、後1点は、農業集落排水事業ですかね。この事業をいつ廃止にして、下水道事業の中に入れるわけですね。

下水道事業の中にいつ入れようとしているのか、その辺をお尋ねいたします。

○副議長 山崎廣美君

上下水道課長、答弁。

○上下水道課長 谷内英仁君

農業集落排水事業の排水につきましては、平成29年3月31日をもって廃止いたします。また公共下水につきましては、同じく平成29年4月1日をもって合併をして、農集を廃止ということになります。以上です。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

以上ではありません。上水・下水の債務の、今ここの24年度債務残高表を頂いております。これから先は、今あなたなりに、やはりどのように債務を減らしていこうかという、その計画、先程は普通会計の質問をいたしました。この企業会計と特別会計について、どう考えていますか、という質問です。

○副議長 山崎廣美君

上下水道課長、答弁。

○上下水道課長 谷内英仁君

水道会計につきましては、現在、一般会計からも、話がありましたように、償還額以下について、起債の借り入れの予定で進めております。このまま起債の借り入れを続けると、平成35年から36年にかけて、約7億円の残高に落ち着かせるつもりであります。その後は、間に水道事業を改善いたしまして、内部留保資金ができましたら、これを取り崩す形で、それ以上の起債の残高に縮小する予定でございます。

公共下水につきましても、同様のことを検討しております。以上でございます。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

上水について、いま数字を頂きましたね。平成36年と言いましたね、これは。実際に今の残高が10億5700万円程度ですかね。これから3億円ちょっとですかね、3億5000万円程度の償還を見込んでいるということではありますが、実質は伊良原からのが一番、不安要素を抱えていますよね。そのような点と。

それと、あと一般会計からの繰り入ればかりを当てにするようなことじゃ困るわけなんですよ。だから債務返済がきついから、だから供給水路がきつくなりましたから、また一般会計をお願いします、というようなことでは何もならないんですよ。だから、それを連結決算で我々が見ておるわけですよ。

普通関係と企業会計、特会と、全てを見ながら質問させて頂ければ、そういったところに今どれだけいらっしゃいますか。財務課長、3億円ぐらいですかね、幾らいらっしゃいますか。

○副議長 山崎廣美君

財務課長、答弁。

○財務課長 諫山喜幸君

水道会計には5200万円出しております。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

それじゃないんじゃないですか。上下水道課長、そんなもんじゃなかったんじゃないかな。

○副議長 山崎廣美君

上下水道課長。

○上下水道課長 谷内英仁君

補助金の金額でございます。まず水道につきましては、平成24年度5200万円頂戴しております。また公共下水につきましては、補助金といたしまして2億6746万5000円でございます。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

補助金ですかね、いま言ったのは。補助金と繰り入れは同じもので、実際は一般会計からお金が入っているものはありませんか。

○副議長 山崎廣美君

上下水道課長。

○上下水道課長 谷内英仁君

只今のは補助金でございます。他会計補助金といたしまして、水道事業が5200万円、そして公共下水道が、他会計補助金といたしまして、2億6746万5000円を頂戴いたしております。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

以外行ってなかった。それを繰入金として見なしてよろしいですかという質問なんですよ。一般会計からの繰入金が、上水道に対して5千数百万という数字で間違いなかったかどうか、ちょっと再確認です。

○副議長 山崎廣美君

上下水道課長、答弁。

○上下水道課長 谷内英仁君

はい、3条予算のほうで補助金といたしまして、運営費、営業用の補助金として頂いております。ですから、繰入金というと法定繰入金等がございますが、あくまでも法的根拠のない補助金ということで、申し上げさせて頂いております。

○11番 爪丸裕和君

財務課長、よろしいですか。

○副議長 山崎廣美君

財務課長、答弁。

○財務課長 諫山喜幸君

上水道につきましては、5200万円という補助金で、それ以外に繰り出しはしておりません。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

分かりました。3億円というのは、公共下水が2億数千万円だったということですかね。

ということで私の数字の認識の不足であったと思います。

いずれにしても、そこに戻りますが、上下水道課長、しっかりとした、その債務返済計画というものを、しっかり先程立てておりますが、下水道については、まだ漠然としたような答弁でありましたので、そこもやはりしっかりとした債務返済計画を立てて、そして実行に移して頂きたいと思います。

次に、特別会計にいきますが、バス事業が、これが始まったのが何年になるか分からないが、この経緯につきましては、総務課長、もともと二豊交通のほうが3500万円でしたか、そのくらい委託料を頂かなければ運営できないと。当時2000万円弱だったという記憶なんですけど、小さい数字は記憶にないが。であるのであれば、もう市のほうでやろうじゃないかということで立ち上げたのが、いま豊前市バスですね。

しかしながら今現在は、やはり3000万円からの繰り入れじゃないんですかね。ちょっと正確な数字を、ちょっとお尋ねします。

○副議長 山崎廣美君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

お答えします。正確な繰り入れでございますが、24年度が2298万3000円です。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

そして、これはもう市長、やはり市民にとっても交通手段です。しっかり、これは行政として確保しなければならない事業だと位置付けているんですよ。しかしながら、その中で、いつまでもいつまでもというか、その繰入金も、どんどん次から次に増えていってよろしいというものじゃないと思いますよね。

そこで、やはり知恵を絞ると申しますか、やはり改善すべきところはしっかり改善して頂きたいと思うんですよ。その点を踏まえて総務課長、執行部のほうでどのようなお考えなのか、改善策等がおありでしたら、お聞かせ下さい。

○副議長 山崎廣美君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

改善策について、お答えします。これまで収支改善策として車両の小型化、定期検査の強化により、維持費や消耗部品の取り換え時期を延長することによって、経費削減に努めてきたところでございます。

また収入増の取り組みといたしましては、平成23年から、福岡県の生活交通確保対策事業が新設されまして、そういう補助金を積極的に申請している状況でございます。

今後でございますが、土日、祝日の100円バスのPRに努めて、また高齢者が利用し易いように補助ステップを、本年度付けられる車両を改造して、利用者の増に努めたいと考えております。

また昨年も一般質問でご提案頂きましたが、今年度、夏休み期間中、小・中・高校生の利用も多いということでございますので、夏休み子どもキャンペーンとして、期間中、平日も含めて100円バスをしたいと考えているところでございます。以上です。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

では総務課長、そういうふうには、やはり経営の健全化に向けて、しっかりと取り組んで頂きたいと思っております。

そして、次に、一部事務組合についてですが、まず、これは環境施設組合と、これは清掃施設組合との関連で、ちょっと聞きたいんですが、市長、私も新聞を見ましたし、皆さんも、市民の殆どの方もご存じと思いますが、環境施設組合の構成団体が豊前、そして築上、みやこということで、そして築上の新川町長のほうからですかね。やはり脱退というような申し出が出たということで、当然これは議会承認も築上町さん、当然、議会承認も要ると思いますが、その点を見据えてなんですが、市長、いま東側のほうの吉富さんと上毛町さんが、1つの施設を使っております。これは正式には、豊前環境施設組合でよろしいんですかね。豊前外二町になるのか。豊前外二町豊前広域環境施設組合ですね。間違ったら悪いからしっかり記録しておいてください。

申すまでもありませんが、やはり老朽化、隣の吉富さん、上毛さんにおいても、やはり老朽化というような状況で、これは市長、如何なものでしょうかね。やはり隣の2町さんにお声かけをして、今この構成の団体の見直し、それと共に今申しました吉富さん、そして上毛町さんにつきましては、清掃施設組合の構成団体でもあるわけですよ。

その点も踏まえて、1つの組織、一本化を清掃と環境の合併と言いますか、統廃合というようなことを考えて進めて頂ければと思うんですが、この点について如何でしょうか。

○副議長 山崎廣美君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

現在、豊前市外二町清掃施設組合と、豊前広域環境施設組合と、2つの一部事務組合をもちまして、し尿、そして一般廃棄物を焼却処分、リサイクルしているところでございます。いずれも豊前市を中心に、西側と東側ということで構成しておりますが、環境施設組合のほうは、いま質問にありましたように、築上町さんが脱退するという、これはまだ正式には、議会で決まらなければどうしようもないところですが、こういう推移を見守りな

がら、研究していきたいと思います。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

それと、これは環境課長、ちょっと参考までにお尋ねいたします。

現在1市2町の枠組みが1つ、築上さんが抜けられて、豊前市とみやこ町さんになった場合、今の負担金の割合というのは、大体どのようになるのか。当然、シミュレーションしていると思いますので、その辺、現行の何%から何%になるという程度で、お答え頂ければと思います。

○副議長 山崎廣美君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

あくまでも、まだ仮定ということで、お聞きして頂いたら良いかと思ひます。

資料でも、平成20年から24年度の決算額ということで、豊前市の分担金を提示しておりますけれども、その時点で、豊前市の負担割合、3町含めてですね。その負担割合は44%になるかと思ひます。この時に、築上町さん、みやこ町さん、均等割、人口割、搬入割という3つで計算されているんですけれども、築上町さんが、もし退かるということになれば、その分が豊前市とみやこ町で、その均等割は一緒ですが人口割、搬入割と分けて来るといふことになると思ひます。試算ですけれども、52から53%くらいにはなるのではないかと考へております。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

数値的に市長、あくまでもシミュレーションでしょうから、細かいことは言われないうと思ひますが、いずれにしても、これは負担増は間違いないですよ。どなたが考へても。3で割っていたのが3分の1が分かり易く言えば2分の1になるんだから。やはりこの点も踏まえて、やはり、それと先程申しました清掃も含めて、ちょっと、この点が可能かどうかだけお尋ねしたいんですが、今の環境と清掃を1つの組合として合併させることが、この辺について弊害がないのか、可能なのか、その点はいかがですかね。

○副議長 山崎廣美君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

これは一部事務組合でございますので、構成団体、市町になりますが、市町の考へ方ひとつではあると思ひます。ただ目的がいま2つありますので、これをどういふふうに分

するのか、どういうふうにやれば良いのか、という大きな問題もございますし、まだ周辺の首長さん達からは、直接的にそういう話しは聞いておりませんので、私のほうから具体的なお話は控えさせて頂きたいと思えます。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

おっしゃるとおり、やはり構成団体の首長さんなり、議会がおありのことでしょうから、これは、ちょっと調べて頂きたい。私は不可能じゃないんじゃないかという認識なんです、例えば市長、広域圏がそうですよね。広域圏の中で全て分かれとるでしょ。

1つの組合として広域圏は広域圏、1つの中であらゆる学校給食、消防、いろいろありますが、そのような枠組もできないことじゃないんじゃないかと思うんですよ。もしできるのであれば、その辺も一度検討して頂き、いま市長がおっしゃるとおりと思うんですよ。

今この場で、ちょっと発言できる問題じゃないと思えますが、可能であるのであれば構成団体の町長さん、首長さん、そして、また議会等、私たち議会も議長を含めて、近隣の議会とは、かなり友好的な関係を築いておりますので、その辺も一緒にやっていければと思えます。こういったところで経費の削減に、要はつなげて頂きたいという趣旨でありますので、その辺を申し伝えておきます。

次に、学校問題です。これも先程、黒江議員のほうから出ていましたが、これは吉富中学ですかね。これは吉富町外一市中学校組合というんですか、正式には、という中で、歴史的な流れもあると思うんですよね。当時9ヵ町村が合併した当時、三毛門と、当時は副市長たちの時代から、もうちょっと先輩になるのか、かなりの子供が多いというか、児童生徒の多いような時代のなかで、やはり合併は良いけど、果たして、豊前市の千束中学が、当時の三毛門を受け入れるだけの規模があったのかというような、そのような話も当時の方からも聞いておりますが、これだけの少子化という時代のなかで、やはり行政区という壁があると思うんですよ。だから、やはり黒江議員にしても、地元の一番ニーズというか、地元の保護者の意見を、一番理解された方じゃないかと。そのような中で午前中の質問をされたんじゃないかと思えます。

実際この負担金の割合につきましては、これも資料を請求いたしております。大体3000万円前後ですか、当然、交付税措置もおありと思えますが、この辺も将来の人口減を見据えて、市長、しっかりと、これはやはりその辺も視野に入れて。

それと、これは学校教育課長に戻るのか、7月にその辺が立ちあがってくるでしょうから、だから新議員の方々にも、その辺をしっかりと伝えた上で、三毛門の保護者の中には、やはり市内の中学校に通学させたい、という意見がかなり強いというような意見があったんだから、その点も踏まえて、通学区域審議会のほうで、また検討頂ければと思えますの

で、そこをしっかりと踏まえておいて下さい。

市長に、ちょっとこの辺を頂きたいんですが。

○副議長 山崎廣美君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

三毛門小学校の子ども達が、吉富中学校にお世話になっている問題につきまして、私も豊前市と吉富町で、一部事務組合をつくりまして、いま吉富中学と一緒に運営させて頂いております。おっしゃるように、午前中の黒江議員さんのご質問のときから、この問題については両面あると思います。やはり豊前市の市民が、他町と同じ中学校に行って、将来また豊前の市民として活動、活躍するときに、人脈形成の上から、また大分県の人たちとのふれあいも大事でございますが、やはり基本である豊前市のつながりを深くというご指摘がございます。

一方で、三毛門地域に、子ども達の教育のために移り住みたい、豊前市民でありながら、隣の中津の、大分県の高校にも進学チャンスがあると。こういう機会を与えられる、持っている吉富中学に行くことによって、子どもの将来を考えてという、そういうチャンスを求めて行く保護者の方も、子どもさんもおられるとも聞いております。

そういう意味では、両面ございますが、しっかりと地域の声を聴きながら、また議会の皆さんと相談しながら、少し時間をかけて解決していかなければならない問題だろうと思います。吉富町さんにも、先程ご質問のなかで指摘頂きましたように、歴史的にはおんぶに抱っこでお世話になったという経緯がございます。

それを今こういう状態だからと、ポツとして良いのか、というご意見もあろうかと思っておりますので、多方面にわたる意見を聴きながら、少し時間をかけて解決していかなければならない問題であろうと認識しております。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

市長がおっしゃるとおりでしょう。それと過去の話もされましたが、それと先程に戻りますが、環境との関連も出てくると思いますので、やはり隣同士は仲良くするというのが、これは前提であります。やはり一番が保護者、そして通学される生徒になってくると思いますので、その辺のしっかり要望を、どの辺にあるのか、また審議会等で一遍、立ち上げたときに、これは調査するのも1つの手だと思うんですね。実際は、やはりそこに教育長がおられますが、入学される、やはり一番大事なものは、保護者と生徒ですよ。

だから、そのような方々を差し置いて、行政同士で進めるということも問題があると思いますが、このような意見が出ているということ踏まえて、しっかり調査されて下さい、

ということで、この問題は終わります。

そして、時間がちょっとずれましたので、あと1件は、京築地区の水道企業団の問題、当然これ一部事務組合の中でもとっていたんですが、これは、ちょっと私のほうから、これが可能なかどうかなのか、企業長は当然、市長になってまいります。

そういうなかで、いま事業といたしまして、当然、収益的な事業、そして資本を投入する資本的収支というような2つあるわけでありましたが、やはりこの収益事業に関しては、この際、7つですかね、構成団体は幾つですかね。上下水道課長。

○副議長 山崎廣美君

上下水道課長、答弁。

○上下水道課長 谷内英仁君

構成団体は、2市5町でございます。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

7とご答弁頂ければ良かったんですが、その辺を、ちょっと、この辺を企業長として可能なのか検討して頂いて、水道事業の運営、例えば民間が水道事業を運営するというような時代になっていると思うんですよ。ウォータービジネスなんて言葉も使いますが、そのような点を踏まえて、同じ企業団が水道を受けてやるのであれば、各自治体の市や、町が、水道課が運営するよりは、ここはコストが引き下がると思うんですよ。これはしっかり可能かどうか。それとこれは先程に戻りますが、一部事務組合だから、当然、構成団体の首長さん、議会がいますが、これは可能であれば、やはりそうすることによって、コストを引き下げるということも、やはり重要じゃないかと思しますので、一度調べて頂きたいと思しますので、いかがでしょうか。

○副議長 山崎廣美君

上下水道課長、答弁。

○上下水道課長 谷内英仁君

この件につきましては、他の自治体の動向も確認しながら見守りたいと思っております。内容的には、各自治体の議会もございまして、簡単には、ちょっと申し上げませんけれども、さらに見守るということで。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

しっかりと、これは無駄な事業を見直して、これはコストを下げるという視点に立って取り組んで頂きたいということでありまして。

そして今回、質問をまとめさせていただきますが、先程、鈴木議員、平田議員のほうからも出ましたが、これは30年後ということによっておりますが、日本創生会議だったと思うんですよ。私も見ていたテレビ番組で30年後に、先程、鈴木議員が数字を言われておりました。八百数十の自治体が消滅するであろうということなんですよ。

要は人口が当然、減少というのが、一番の引き金になっているんでありましょうが、やはり自治体間同士の中で、この豊前市の存亡をかけた、今からそういったような闘いというのは、もう始まっているわけなんですよ。そのような中で、今の豊前市の職員の意識がしっかり、そここのところの危機感があるのかどうなのか。その辺を見る限りは、確かに、この所属長につきましては、この議会を通じて、いろいろ各議員さんから厳しい指摘があるから、その辺はしっかり分かっていると思うんですが、それが下まで伝わっているかどうかということが、1つ言わせて頂ければ、朝礼をやっていますよね。

例えばどこの課が朝礼をやっていますか。

○副議長 山崎廣美君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

現在、総務、総合政策課、財務課、3課で朝礼をやっております。以上です。

○副議長 山崎廣美君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

市長、そこなんですよ。やはり市民を、まずオーナーであり、お客様であるという点に立った時に、しっかり、まずこれは朝の朝礼から始まるんですよ。ちょっと私も時間があつたから、横で聞かせて頂きましたが、財務がよくやっていますね、それは総務も。

確か2階のフロアはやっているんですよ。そして、これは下の事業課も、そのまま時間になったらブラブラ、私の意見を申し上げさせて頂ければ、あまりにもまとまりがないんじゃないかというのが率直な意見です。やはりこれはしっかりとした住民をお客さんという位置づけにするのであれば、その辺を徹底させて頂きたいと。

そして後藤市長、就任されて1年経過されました。そして私は、後藤元秀市長を思えば、ある一人の方を思い出しますよ。市長もご存じでしょうが、臼杵の後藤国利さんですね。まさに同じような、姓も同じだし、そして後藤国利元市長は、薬屋さんですね。

後藤元秀市長は酒屋さんというような、そして県会議員を5期20年です。後藤市長は、私は記憶では22年だというような。そして、その後に、市の行政機関のトップに。後藤国利さんも、やはり一度は引退されたんだけど、これは臼杵が当時、財政が無茶苦茶悪いんですよ。これを何とかせなならんということで、あの方が出馬されて、そしてご承知のようにバランスシートを取り入れたわけです。

そして、まず職員の意識改革に取り組んだときに、まず8時30分から5時までという、これは市民のための時間であるから、まず組合と話をしたわけなんです。その前に、組合と市長との話し合いの場を持ってくれということで、そして組合もそれを受け入れて、そしてあらゆる改革を進めて財政は健全化の方向に行き、そして大分県というのは、言うまでもないけど、当時の平成の合併の先進地なんですね。そのような中にありながら、これは津久見との研究会まで立ちあげます。それを断った理由は、津久見さんは、全く今の改革の意思がないと。当時の財政が厳しい中でも、職員数を増やしたらどうですかと。うちのほうは減らしているじゃないですかと。一度お宅が持ち帰って下さいと。

そして、本当に行政改革の取り組みの姿勢があるのであれば、もう一度テーブルに着きましょうと、このようなことをおっしゃられた方ですね。というようなことがありますけど、私は、どうもちょっとダブるところがありまして、そして後藤元秀市長のそのリーダーシップと、行政改革というものに大いに期待いたしておりますので、一言だけ頂いて終わりたいと思います。

○副議長 山崎廣美君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

白杵の後藤市長と並んでお話をして頂きまして、本当に光栄でございます。まだまだ足元に及びませんが、頑張っていきたいと思っております。

ご指摘頂きました、市職員の1人ひとりが、意識があるのかどうかというのは、確かに私も感じる場所がございます。昨年の秋、9月くらいから私が2階フロアだけでも朝礼をやろうと、そして組織で気持ちを1つにして毎日を大事に、しっかり市民のために、市の将来のために仕事をしてくれ、ということからスタートいたしまして、いまご指摘頂きましたように、1階のフロアも今度移動しまして、少し落ち着いた環境ができれば、朝礼をやろうと。1階については、お客様が来られるので、ちょっと問題があるんじゃないかという意見がありましたが、それは誰か1人毎日、担当者が決まればできることなので、むしろ朝礼の姿を見て頂くことのほうが、市民の皆さんに良い市役所の前向きな姿を見て、提供できるんじゃないかという意見のほうが強かったものですから、そういう方向でやらせて頂きたいと思っております。

財政難と人口増、財政難につきましては、もうきょう、今の質問のなかで、きょう質問して頂いたベースには、人口増と、これ以上、減らさないようにしろということと、やはり健全な財政で、次に備えろというのが、全ての質問に共通したところであろうと思っております。そういう意味では、やはり限られた財政、しかしながら攻めていく行政運営をしなければならぬと。この2つをどのようにコントロールしていくのかというのが、我々執行部の大きな課題でございます。1階の皆さんと、知恵と力を合わせてやっていきたいと

思います。

最後に人口増で、その危機意識が足らんのじゃないかと、一般の職員が。そういう意味では、独身の男女が市役所の中には、まだまだおります。そういう単身、独身の皆さんに少しでも結婚をして頂き、子づくりをして頂き、地域づくりに協力してもらいたいと思っております。

幸いに、私も市長に就任いたしましたから、私の知る限りでは、3組目、4組目あたりが結婚式を迎えようとしております。この流れを是非、職員1人ひとりに頑張ってもらい、決意に結び付くように声を出していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○11番 爪丸裕和君

ありがとうございました。以上で終わります。

○副議長 山崎廣美君

爪丸裕和議員の質問が終わりました。

次に、渡邊一議員。

○14番 渡邊 一君

只今、市の経営の問題で緊張した質疑がありまして、素晴らしい議会でした。私は、今度は精神的な問題で、気持ちの問題で、皆さん方に、ちょっとお伺いしてみたいと思っております。教育問題と言いましょうか、教育委員会ですか、モラルの問題です。

こういう話しが最近出てきております。長崎県の例の原爆被災地の語り部等の問題ですが、死にそこない、早くくたばれ。こんなセリフがあったそうですが、この問題を、どう皆さんがお受け取りになったかを聞いてみたいと思っております。まず、学校教育課長さんに、お伺いしたいと思います。

○副議長 山崎廣美君

学校教育課長、答弁。

○学校教育課長 武道和宏君

お答えいたします。私も先日、その記事を読みまして、非常に心が痛みました。豊前市では、平成7年に中学生が自ら命を絶つという痛ましい事件が起こりました。

それ以降、豊前市では、人権、あるいは命というものが、いかに大切であるかということについて、特に力を入れて取り組みをやっているようです。ただ、だからと言って、その新聞の記事のような心無い行為が、絶対に起きないという保障はありませんから、教育長とも十分相談の上、次回の校長会でも協議をしたいと思っております。

○副議長 山崎廣美君

渡邊議員。

○14番 渡邊 一君

次に、課長で一番若い方はどなたですか。

(「福祉課長」の声あり)

福祉課長、ひとつご意見を聞かせて下さい。

○副議長 山崎廣美君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 藤井郁君

私もテレビで、そのニュースを拝見いたしまして、言われたお相手の方が、原爆の被爆の関係者だということでありましたが、原爆、被爆ということだけではなく、目上の方に対しまして、そういうふうな暴言を吐くということは、非常にさびしい限りだと。

やはり家庭教育を含めまして、教育の大事さ、大切なんだなというところを感じさせて頂いた次第でございます。

○副議長 山崎廣美君

渡邊議員。

○14番 渡邊 一君

ありがとうございました。次に若いのは清原君かな、清原君の意見を聞かせて下さい。

○副議長 山崎廣美君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

ちょっと私は、そのなぜそういう発言に至ったのか、ちょっと分かってないんですけども、私個人的にですけども、一所懸命生きている状態です。皆さんに迷惑を掛けて生きている状態ですけども、一番やはり人間の根源に関わる場所だと思いますので、お互い尊重して、その辺は敬っていくべきものだろうと思っております。

○副議長 山崎廣美君

渡邊議員。

○14番 渡邊 一君

どなたもありがとうございました。最後に女性のご意見を、一番若い監査事務局長さん、お願いします。

○副議長 山崎廣美君

監査委員事務局長、答弁。

○監査委員事務局長 井上由美君

初めて答弁させていただきます。その記事についてですけども、ちょっとテレビで見せて頂いて、被爆の語り部の方ですか、その方が、ちょっと態度が悪い生徒がいたみたいで、その方について、ちょっと注意をしたら、暴言を吐いたということで、問題になっているのは、校長の方が生徒に対して反省文を送らせますということが、最後、記事にされていたんですけども、反省文だけを送って、それが終わりになるのが一番問題じゃないかと、

そのように感じております。以上です。

○副議長 山崎廣美君

渡邊議員。

○14番 渡邊 一君

どなたもありがとうございました。概ねちゅうか大変健全な答弁で、わが豊前市は、絆の深い道徳観を、皆しっかり持っている職員さんが揃っているということで安心いたしました。勿論、悪気はなかったと思うんですよ。

聞くとところによると、やはり語り部のお爺ちゃんが、ちょっと騒いだものだからやかましく怒ったみたいですね。まだ騒ぐものだから、あんただけ出て行きなさいということがあったみたいです。それにしても、そういうことがあったにしても、こういう暴言を吐くようなことはいかん。特に先程、学校教育課長が言うたように、うちは、いじめの自殺というのを体験しているんですから、命の尊厳というか、人間の尊厳というか、これはもうどうしても世界の範とならなきゃならん。また世界の人が日本人というのは、そういう素晴らしい国民だと思っているんですよ。ですけど、これは通り一遍じゃなしに、これは教育長に今度お聞きします。

先程、教育課長は、校長会で云々というのがありましたけども、これは一学校の問題だけじゃない、しっかり私は取り組んでもらいたいと思いますが、どういうひとつ覚悟で取り組んで頂けるか、答弁をお願いします。

○副議長 山崎廣美君

教育長、答弁。

○教育長 戸田章君

現在の子ども達の心情、いま議員が言われるように態度が非常に横着で注意をされたということでの反発というのは、現実的にそういうことだったんだろうとは思いますが。

しかし私たちは、小学生の修学旅行という物見遊山、中学生でも一緒ですけれども、長崎、広島、やはり平和教育を行っております。中学生は沖縄等にも行く機会もあります。そのときには、事前研修を各学校、何時間もしてまいります。そして、そういうメモリアルの所では献花をしながら、また、そういう語り部の皆さんの話を聞くときには、本当に涙を流すような思いで聞いております。

先程、課長も言いましたように、豊前市で、じゃないかと言われれば、自信はありませんけれども、絶対にあってはいけないことだと思っております。これは学校現場にもよく話をし、保護者、PTAについても、そういう話を広めて、こういう問題をどう捉えるかということで、学校挙げて、いろいろな機会に話し合いをし、家庭内でも、ゆっくりと子どもと、そういうことについても、語れるような家庭であってほしい、そういうふうな指導を私はしたいと思っております。以上です。

○副議長 山崎廣美君

渡邊議員。

○14番 渡邊 一君

ありがとうございました。その語り部さんが、やっぱり先生に、先生、注意したらどうですかとか、何かいろいろ言ったらしいんだけど、若い先生なんでしょう。

どうかしたら生徒を恐ろしがる先生もいますからね。全然、対応をしてくれなかったというようなことも記事に出ておりました。そんなことはないように、日本人として、世界の人が日本人を評価しておりますから、是非、豊前市の教育委員会でも頑張ってもらいたい。

折角、議会の皆さん方が、時間オーバーまで話してくれましたけれども、この1点で終わりたいと思います。ちょうど5時前5分くらいですけれども、皆さん、きょうはご苦労さんでした。終わります。

○副議長 山崎廣美君

渡邊一議員の質問が終わりました。

以上で、同志会の質問を終了いたします。

これより関連質問に入ります。関連質問は、答弁を含め、1人10分以内であります。

関連質問はありませんか。

榎本議員。

○8番 榎本義憲君

それでは、本日の福井議員並びに平田議員、爪丸議員、黒江議員、多くの方が教育問題について、ご質問されました。その中で、1点だけ、確認させて頂きたいと思います。

教育委員会制度改正に伴う就学年齢の引き下げ、5歳からの義務化、あるいは小中学校の教育制度、4・3・2、あるいは5・4制度等が自治体で決定される、そういったことが文部科学省で検討されております。

また通学区の問題についても黒江議員、それから爪丸議員が述べられましたけれども、これらの対応を行うためには、早急に対策を行う必要があるのではないかと。

特に教育委員会の教育委員の増員を含め、あるいは、検討委員会の実施等を行うべきではないか。それに伴う予算措置も考えて行うべきではないかと考えますが、教育長さん、どのようにお考えでしょうか。

○副議長 山崎廣美君

教育長、答弁。

○教育長 戸田章君

教育改革が、本当に国の方針が、いま現場に下りようとしております。

その中で、新年度4月1日から、教育委員会制度が大きく変わるのが、もうすぐ議会で決定するような流れだと思っています。そういう大事な時期にきております。そして、いま議

員がおっしゃった、そういう中身について、非常に大きな責任が、我々教育委員会にもかぶさってくるし、これから、そういうのを立ち上げながら議論をすべきだと思うし、教育委員会制度そのものも、教育委員の1人ひとりの責任ということを含めても、これからは市長を中心に、いろいろお話をしながら、あるべき姿を模索、早めに決定していきたいというふうには考えております。以上でよろしいでしょうか。

○副議長 山崎廣美君

榎本議員。

○8番 榎本義憲君

非常に大きな問題であるわけですがけれども、市長、予算措置を含めて教育委員会が、やり易いように措置をして頂くのは、市長部局になってくる、市長のお考えだと思うんです。お金がなければ、やはり検討委員会もできないし、委員さんの、例えば教育委員さんの増員を含めて、市長のお考えをちょっと聞きたいと思いますが。

○副議長 山崎廣美君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

国のほうで、いま教育会を揺るがすほどの大きな大変革の動きが起きております。ご指摘もつともだと思います。教育のことについては、我々一般行政のほう、市長部局としては、口出しは、あまりしてはいけないという風潮でございましたが、国のこれからの流れを見ますと、市長部局、市部局のほうの責任の分担と言いますか、そういう大きな流れになりつつあります。つきましては、その辺の情報を含めて、しっかりととりながら、これから豊前市として、どのような子育てをして教育をしていけばいいのか、その方向性を探るためには、やはり今のまま、教育委員会だけに任せておいては、ちょっと難しいところもあるのではないかと思います。

ご指摘頂きました点をしっかり考慮して、受け皿を、いま教育長が早急に決めなければならぬと答弁しましたが、その決めるためのテーブルを、まずつくらなければと思いますので、十分にご意見を拝聴しながら、受け止めながら、人的配置も含めて検討させて頂ければと思います。

○副議長 山崎廣美君

榎本議員。

○8番 榎本義憲君

市長、是非、教育委員会、教育長を中心に議論をして頂いて、早急に予算措置を含めて頂きたいと思います。

それから、福井議員の防災対策での質問がありました。私は随分感じたんですけども、議会事務局の職員に対する職務の認識というのを、もっとしっかり持って頂きたい。

そのため中断したということ、やはり反省をして頂いて、よく考えて頂きたいと思います。これはもう答弁はいいです。

5月31日に行いました目的は理解しましたけども、なぜ、この訓練を行ったときの場所が多目的センターなんですか。豊前市役所じゃなくて、なぜ多目的センターでされたんでしょうか。その点をまず教えて下さい。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

お答えします。今回の訓練については、コンサルが入ってまして、コンサルのやり方に基づく、本来、庁舎で、それぞれの部署でやったほうがよかったのかもしれませんが、最初の段階として、それぞれ判断するタイミング、そういうものの訓練でございましたので、全員が一箇所に集まった中での訓練を実施したという経緯でございます。以上です。

○議長 磯永優二君

榎本議員。

○8番 榎本義憲君

災害は、起こったときに、わざわざ多目的センターまで行って受付をすることは無いと思うんですね。いくらコンサルが言ったとはいえ、やはり市役所の中で行うということが柱ですよ。これは電話番号等は、その訓練に当たって、臨時電話か何か引かれたんですか。訓練に当たって。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

今回の訓練については、全てペーパーベースでの訓練でございました。ペーパーに電話が掛かってきたという形で、メモ書きで、そういうふうなメモが書かれております。それを持って、それぞれの職員がどう適切に処理していくか、というような仕組みの中での訓練でございます。またそれを持って、後からコンサルが時間的に適切に処理されたのかどうかを判断するというところでございます。以上です。

○議長 磯永優二君

榎本議員。

○8番 榎本義憲君

これに要した経費は、いくら掛かりましたか。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

これに掛る経費については、職員の日曜日でございましたので、代休処理をしましたが、超過分が割り増し分がございます。それについては、実費で掛けております。ちょっと集計については、まだ出しておりません。以上です。

○議長 磯永優二君

榎本議員。

○8番 榎本義憲君

では市は殆どタダですか。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

お答えします。今回の分については、県の事業のなかの一環でございまして、市の負担は、そういう意味ではございませんでした。以上です。

○議長 磯永優二君

榎本議員。

○8番 榎本義憲君

いかなる訓練と言え、災害が起こった時に、本来使用できない場所でやっても意味がないと思います。コンサルを雇ってすると、お金が掛らなかったかもしれませんけども、やはり行うときに、実際に災害で対応する場所において行うべき。それぞれ職場に、どこの地域に配置されるか分かりませんが、それぞれの職員の実際行う行動も含めて、やはりやらなければ、やった意味が発生しないと思うんですが、その点についてはどうですか。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

ご質問にお答えします。今回の訓練については、いかにタイミング良く、そういう状況判断ができるか、またそれぞれの班が全体として情報の共有ができるか、ということを目眼においた訓練でございました。議員さんが言われるように、本来は、庁舎の中で、部署で電話等で本当にあったような形で訓練するのが、良かったのかもしませんが、今回、初回ということで、次回からは、今回の訓練を評価、検証して、やっていきたいと考えております。以上です。

○議長 磯永優二君

榎本議員。

○8番 榎本義憲君

やはり反省をして頂きたいと思います。それから最後に1つ、6月5日にミサイル、あるいは災害等の対策で、防災無線を使って、いろいろ練習をされましたね。

そのときに区長さんと、いろいろされたと思うんですが、学校の生徒が、そういった避難訓練をされたという話しを、ちょっと噂で聞いたんですが、そういったことの把握はされていますか。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

お答えします。今回の訓練につきましては、各小中学校、高校にご案内を差し上げております。安全行動123という訓練でございます。これについては、自由参加、自主的な参加の中での訓練でございますので、是非この機会に、こういうやり方があるんだなということを市民の皆さん、また小中学生にお知らせする意味でも、ご案内を差し上げていくところでございます。以上です。

○議長 磯永優二君

次にありませんか。

鎌田議員。

○6番 鎌田晃二君

福井議員の天地山多目的グラウンドの芝生化ということでありましたので、関連で質問をさせていただきます。

この芝生化について、行橋市でも、芝生化が計画されておりますけれども、私ども鳥取市のほうに芝生の視察に行った折に、サッカーグラウンドもですけれども、本当に校庭もそうですが、芝生化が子ども達にどれだけ良いか、ということで視察に行きました。

そして、この芝生化ということで、質問をしたんですけれども、行橋のほうは取り上げて、今回、芝生化に計画されております。豊前市でも、先程言いましたように、天地山の多目的グラウンドを芝生化にしたかどうかという話しがありました。

そこで検討する中で、鳥取市のティフトン芝というのがあります。これはかなり安くて、それから、管理が物凄くし易いということなので、普通の芝生はかなり高くて管理も難しいということなので、検討する中で、是非このティフトン芝というのを検討課題に入れて頂きたいという思いで、ちょっといま関連で質問させていただきました。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

これは経費等を計算する上で、試算する上で非常に大事なことだと思いますので、それも含めて検討させて頂きたいと思います。

○議長 磯永優二君

ほかにありませんか。

(「なし」の声あり)

以上で関連質問を終わります。

それでは、これをもって一般質問を終了いたします。

以上で本日の日程は、全て終了いたしました。

よって、本日は、これにて散会いたします。お疲れ様でした。

散会 17時05分